

インターカルチャ INTERCULTURE

NO. 99

2005年5月号

MAY



■■ 学校法人 千里国際学園 Senri International School Foundation (SISF) ■■

千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) 併設 大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS)

〒562-0032 箕面市小野原西4丁目4番16号 TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055 URL <http://www.senri.ed.jp>

第12回高等部卒業式
大学等合格状況
中等部高等部入学式
英語検定1級に3名合格
APACサッカー・ソフトボール



2005/4/4 万国旗に囲まれて入学式

Decency

大迫弘和

SIS校長

バンコクの Montien Riverside Hotel にチェックインをしたのは3月18日（金）の夕刻。11年生の生徒たちはまだその日のそれぞれの取り組み『遺跡』『宗教』『料理』から戻ってきていない時間でした。今回、11年生の学年旅行に旅程の途中、3日目から同行した時のこと。

「あの、水曜日から宿泊している日本の学校の校長先生でいらっしゃいますか？」

チェックインの際、そのように尋ねられました。

「ええ、そうです。お世話になっております。」

そう答える私にホテルの従業員さんがおっしゃってくださった言葉。

「すばらしい生徒さんたちですね。みんな英語が分かるので私たち従業員にとって本当に大助かりなんです。」

伺えば、そのホテルは日本の高校が修学旅行でよく利用するとのこと、ちょっと高校生には贅沢かなと思える立派なホテルは人気があるようです。ところがどうも日本の高校生たちは従業員さん泣かせの存在らしい、「とにかくコミュニケーションが取れないので、ちょっとしたことで、トラブルになってしまうんです。」

それに比べ今回のSIS11年生の集団は、どの生徒でも英語でコミュニケーションが取れるので、こんなに楽しく仕事が出来た高校は初めてだということでした。

「インターナショナルスクールですか？」

「ええ」と私は答えました。

ホテルへの到着早々このような話を伺い、思わず相好を崩す私に、さらに嬉しい言葉を従業員さんは投げかけてくれました。

「それにとってもマナーがいいんです。私たちに対しても本当に丁寧に接してくれて。ものすごく気持ちがいい高校生の皆さんですね。」

それは、英語が出来る、ということより、何倍も嬉しいお褒めの言葉でした。

生徒たちがホテルに到着しました。ロビーに集まっているのは、いつもの彼ら

らしい服装と雰囲気、私の大好きなSISの生徒たち。確かに、バンコクという異国の都市に旅している者たちとして、ちょっと普段と違う緊張感というものは心のどこかにあるようでしたが、ロビーという公共の場にいる彼らから、従業員さんが言われたようなマナーのよさが、どこからとなく感じられるのでした。

とても嬉しく、そして誇らしく思いました。

decencyという言葉のことを考えました。その言葉と出会ったのは1994年大江健三郎氏がノーベル賞を受賞した際ストックホルムで英語によって行った記念講演『あいまいな日本の私』の中でした。大江氏は望ましい日本人像を語る中でdecency(上品な、品のよい)ということからあげていました。別の場で氏はそれを「上品なとか、寛容なとかいう日本語にあたると思います。同時に、場所柄にかなった、その場にふさわしいという意味も持っています」と説明しています。

タイ、バンコクのホテルで、SISの11年生たちは、正にdecentな存在でした。

彼らが、SISの5つのリスペクトを、そのような形で体現してくれているなら、これ以上嬉しいことはありません。

4月4日、私は入学式で次のようなメッセージを語りました。

「千里国際学園が掲げる『5つのリスペクト』は、皆さんにとってははずすことが出来ないトレーニングメニューです。

時がたつと、すべてのものの色があせていきます。風化していく、という言い方でもいいでしょう。しかし、千里国際学園の5つのリスペクトは絶対に風化させてはいけません。

私たちは『5つのリスペクト』の正しさを深く信じています。

正しいと信じていることは、何度も何度も皆さんに語り続けていきます。」

SISで「5つのリスペクト」のトレーニングを受け、今年大学を卒業して社会人になったある卒業生が、この春、次のようなメールを送ってくれました。

「私が、SIS初のナースになるんです...。後輩が数名、看護の道を目指していると聞き、嬉しく思っています。SISで学んだ事は、自分の基本になっているなと感じています。SISの『5つのリスペクト』は、ナースには、なくてはならないものです。(もちろん、他でもですが)。学生時代、実習中等に『あっ！これが5つのリスペクトか...』と感じたものです。自分の心の深い所で、『5つのリスペクト』が日々、発展しています。SISで『5つのリスペクト』を学んだ生徒は、きっとこれからニーズの高くなっている『医療・介護』の世界で活躍できるのではないかと思います。まあ、なりたてホヤホヤの私が言うのも生意気な話ですが...。これからも、続けてくれる事を願っています。」

5つのリスペクトが生み出すもの。

バンコクで、SISの生徒たちが、おそろく無意識のうちに示していたdecency.

従業員さんたちの、SIS生徒に対応して下さるときの、暖かな笑顔は忘れられません。

(余談ですが、現在アメリカで2004年スーパーボウルでの「ジャネット・ジャクソン」事件以降「decency」という言葉が独り歩きして、TVや映画について徹底した自主規制が行われるようになってきているという話を最近耳にしました。病めるアメリカの一面でしょうか。)

千里国際学園基本方針

千里国際学園では、自分の行動に責任を持ち、よい人間関係を維持していく能力が、生徒各自に備わっていると信じます。この考えにもとづいて、次のような行動の目安がつくられています。

< 5つのリスペクト >

自分を大切にする
他の人を大切にする
学習を大切にする
環境を大切にする
リーダーシップを大切にする

第12期卒業生巣立つ

3月14日(月)千里国際学園体育館にて、高等部第12回卒業式が挙行されました。今年は、初めて、平日の夕方という時間帯となりましたが、多くの保護者、在校生、教職員が12年生の旅立ちを祝福しました。卒業生は、スライドと各自のセレクトによるBGMとともに、スポットライトを浴びながら赤いじゅうたんから登壇し、ひとりひとり、校長先生から卒業証書を受け取りました。新たな一歩を踏み出す卒業生、その輝かしい未来に幸あれ！



卒業生大学等合格状況一覧

2005年4月11日現在判明分

2004年度卒業生徒数86名・過年度生 9名(合格者数は延べ人数) *掲載順序は北から南への地域順

学校名	合格者数		学校名	合格者数	
	現役	卒業		現役	卒業
国公立大学			神戸女学院大学	3	
東京大学		1	甲南大学	1	2
東京外国語大学	1		甲南女子大学	1	
滋賀大学	1		武庫川女子大学	3	
大阪大学	1		神戸女子大学	1	
大阪府立大学	1	1	神戸松蔭女子学院大学	1	
大阪教育大学	1		広島国際大学	1	
神戸大学		2	京都女子大学短期大学部	1	
香川大学	1		大阪青山短期大学	1	
私立大学・短期大学	現役	卒業	東大阪大学短期大学部	1	
慶応義塾大学	5	1	武庫川女子大学短期大学部	1	
上智大学	5		専門学校	現役	卒業
早稲田大学	12	2	ヒューマンフィッシングカレッジ	1	
青山学院大学	3		コンピュータ総合学園HAL	1	
関東学院大学	1		海外の大学	現役	卒業
日本大学		1	Temple Univ. (US)	2	
神田外語大学	2		Boston Univ.(US)	2	
名古屋外国語大学	1		Kapiolani Community College(US)	1	
愛知学院大学	1		Michigan State Univ.(US)	1	
人間環境大学	1		Northeastern Univ.(US)	1	
立命館大学	13	3	Berkly College(US)	1	
同志社大学	8	4	Brandeis Univ.(US)	1	
同志社女子大学	1	1	Syracuse Univ.(US)	1	
京都外国語大学	1	1	Wheaton College(US)	1	
龍谷大学	1	1	American Univ.(US)	1	
京都精華大学	2		Macalester Univ.(US)	1	
佛教大学	1		Univ. of Minnesota(US)	1	
関西大学	3	5	Santa Monica College(US)	1	
関西外国語大学	1	1	New York Univ.(US)	1	
近畿大学	1	1	Carleton Univ.(US)	1	
追手門学院大学	1		Denver Univ.(US)	1	
大阪電気通信大学	1		Clark Univ.(US)	1	
大阪樟蔭女子大学	1		York Univ.(Canada)	1	
大成学院大学	1		McGill Univ.(Canada)	1	
天理大学	1		Univ. of Otago(NZ)	1	
関西学院大学	5				
宝塚造形芸術大学	1				

進路情報室便り

見島直子

国語科

この3月に卒業した生徒および過年度生の大学等合格状況を今年も一覧表にしました。一覧表にしてしまうと、のっぺりとした数の集合になってしまいますが、実はひとつひとつの1に違った物語があり、また残念ながらここに

1として存在することのできなかった累々たる屍も、それぞれの物語とともにあるわけです。

従って、在校生の皆さんにとって、この一覧表が重要な意味を持つわけではありません。と言うのも、進路選択はきわめて個人的な選択であって、この一覧表が、皆さんの進路選択に枠をはめるものであってはならないからです。卒業生はそれぞれが自分だけの進路選択をしました(と信じています)。あなた方はあなた方で、与えられた時間を最大限に利用し、自分だけの進路を模索してください。

私は、進路情報室担当教員として、生徒や保護者の方から様々な相談を受けますが、大抵の場合は話を聞きながら一緒に悩むだけ。悩みを一挙に吹き飛ばすような明快な筋道を提示することはできま

せん。それは、進路選択が極めて個人的な行為であるためです。生徒本人の夢、適性、実力、価値観、学習習慣、家庭の経済状況や保護者の価値観、親子関係等、すべてひとりひとり違います。そこに、年々変化する入試システムや社会全体のあり方といった周辺環境が加わって、さまざまな進路選択にたどりつくのです。

進路選択が圧倒的に個人的で、汎用マニュアルが存在しないために、いわゆる大学合格体験談なる個人体験談が巷では多く読まれています。本校の進路情報室でも、卒業生に勉強法や進路決定時期についてのアンケートをお願いして、在校生の参考に供していますし、卒業生を招いて体験談を披露してもらうこともあります。しかし、それらはあくまで「参考」もしくは「動機づけ」であって、「モデルケース」ではありません。つまり試行錯誤のたたき台としての利用価値です。ですから、大学合格体験談もしくはそれに類する膨大な情報は、どうぞ積極的かつ注意深く「参考」にしてください。

それでは進路情報室の役割はいったい何でしょうか。そのビッグ3は

一、大学等の学校情報・入試情報の提供。

二、進路選択を考える道筋・順序・手だての提案。

三、生徒が自分の考えを整理する手助けとなるよう、彼らの話に耳を傾けること。

進路情報室との正式な面談(予約をとって時間を確保して行うもの)は高校2年生の冬学期からです。新高校3年生は引き続きどんどん予約をとってください。新高校1・2年生は、基本的に担任の先生と相談をしてください。ただし、進路情報室は終日資料閲覧室として開放していますから、閲覧室としての利用は大歓迎です(高校3年生の面談が入っている時は扉に「CLOSED」の札をかけていますから、その時は遠慮してくださいね)。担当教員?新見先生・松島先生・見島?が在室の時は、質問は受けつけますし、おしゃべりもどきの「プチ面談」も出来ます。掲示板も忘れずチェックしてください。あなたが、自分で進路選択に向かって模索を始めた時にこそ、進路情報室担当教員は助力することができるのです。あなたの大いなる「目覚め」を待っています。

SIS学校説明会のお知らせ

アドミッションズオフィス

	日 程	時 間	内 容
第1回	5月18日(水)	13:30 -	学校全体紹介。施設案内・個別相談有り。
第2回	6月15日(水)	13:30 -	本校の英語教育の紹介。個別相談有り。
第3回	7月1日(金)・2日(土)	13:00 -	個別相談会(要予約)
第4回	9月17日(土)	10:15 -	オープンキャンパス形式 (教科・対象者他については後日更新します)
第5回	10月22日(土)	14:45 -	オープンキャンパス形式 (教科・対象者他については後日更新します)
第6回	11月12日(土)	10:00 -	入試要項説明。個別相談有り。

30分前より受付開始。いずれも約2時間の予定。個別相談は希望者のみ。7月を除き予約不要。上履き不要。

説明会当日の個別相談は、人数と時間の関係で1人当たり15分程度になります。個別のご相談は随時受け付けておりますので、ご希望の方は入学センター(072-727-5070)にお申し出下さい。

5ヶ国語で宣誓

入学式

4月4日(月)、第15回入学式が体育館において執り行われました。57名の中等部入学生と75名(うち内部進学生54名)の高等部入学生が、ミドルスクールバンドの演奏のなか、照れながらも、誇らしげに入場してきました。まだ小学生の面影を残した中等部新入生と、体格だけでなく内面的にも3年間の成長をはっきりと感じさせる高等部入学生、どちらも晴れやかな姿でした。

毎年恒例の生徒宣誓は5ヶ国語で行われました。日本語：廣田富士丸君(Gr.7)、中国語：粘修璋君(Gr.7)、ドイツ語：板橋直人君(Gr.7)、タイ語：兼田友紀子さん(Gr.10)、英語：奥井まみさん(Gr.7)の5人がそれぞれの言語で、世界人権宣言に基づいた生徒宣誓を行いました。その後、中等部生徒会、高等部生徒会からのユニークな歓迎の言葉もあり、和やかな入学式となりました。新入学生のみなさん、千里国際学園へようこそ！



春学期帰国生等紹介

学年	姓	名	Last	First	在留国
7	鮫	島 華	Samejima	Hana	アメリカ
7	八木	隆 太	Yagi	Ryuta	アメリカ
7	笠井	満 莉	Kasai	Mari	イギリス
7	奥田	紘 巳	Okuda	Hiromi	アメリカ
7	奥井	ま み	Okui	Mami	日本(OIS)
7	松井	那 美	Matsui	Namika	アメリカ
7	前田	美 裕	Maeda	Mihiro	アメリカ
7	看舍	瑞 穂	Kansha	Mizuho	ネパール
7	佐々木	一 心	Sasaki	Isshin	カナダ
7	西口	梨 紗	Nishiguchi	Risa	アメリカ
7	洪	慶 鐘	Hong	Kyoung Jhong	日本(城 北 朝 鮮 初)
7	松本	直 也	Matsumoto	Naoya	日本(OIS)
7	柳	芝 娟	Ryu	Jiyeon	韓国
7	ブリテ	梨 佐	Pretty	Lisa	日本(OIS)
7	蕭	燕 霞	Siu	Yin Ha	中国
7	考藤	夕 貴	Kanto	Yuki	日本(OIS)
7	松原	咲 季	Matsubara	Saki	中国
7	板橋	直 人	Itahashi	Naoto	ドイツ
8	陳	威 仁	Chen	Wei Jen	台湾
8	岡嶋	賢 仁	Okajima	Satoshi	アメリカ
9	流郷	ち と	Ryugo	Chitose	ニュージーランド
9	影山	絵 梨	Kageyama	Erika	フランス
9	蕭	燕 妮	Siu	Yin Nei	中国
10	洪	知 仙	Hong	Chison	日本(東 大 阪 朝 鮮)
10	鄭	ア ル	Jeong	A Reum	韓国
10	フィリ	ツラ シ ャ	Phillips	Rashel	日本(OIS)
10	本	廣 定	Motohiro	Sadanari	タイ
10	内田	亨	Uchida	Toru	エジプト
10	長岡	萌 子	Nagaoka	Moeko	タイ
10	雪森	麗	Yukimori	Rei	イタリ
10	兼田	友 紀	Kaneda	Yukiko	タイ
10	岡本	大 地	Okamoto	Daichi	シンガポール
10	中田	拓 馬	Nakata	Takuma	インドネ
11	西小	薫 子	Nishiono	Kaoruko	スイ
11	影山	亜 梨	Kageyama	Arisa	フラン
12	早瀬	麻 衣	Hayase	Mai	ドイ
12	高松	舞	Takamatsu	Mai	中国

タイ学年旅行、皆にコップンカ〜☆

曾我部友紀

高等部3年、旅行委員副委員長

旅行委員が立ち上がったのはいつ頃だったかなあ。1年以上かけて計画していた旅行が春休み3月16日～20日という短い期間で終わってしまいました。今旅行が終わって私に残っているのは、大きな達成感です。

私達は学年旅行の場所にタイという国を選びました。ここまで至るには旅行委員も学年の皆もイライラする事があったでしょう。というのも、最初に旅行委員が場所を決定した時は生徒のみんなから色々と意見や批判が出て、白紙に戻し場所を決めなおしたからです。旅行委員も学

年の皆の意見や要望を十分に汲み取れてなく、決定までのプロセスが不明確に写ってしまったと反省したと同時に、これを機に旅行委員は「学年みんなで作り上げる旅行」というSISならではの思いを強められたのではないかと思います。

場所が決まってからは、旅行委員自身しなければならぬ事も徐々に明確になり、旅行の具体化をどんどん進める段階に入りました。そんな中、旅行委員に試練が大きく押し掛けられました。12月26日に起こった、スマトラ沖地震による津波。滞在するバンコク市には直接被害は無いといえども、今回被害にあった国の1つに、行くのはどうか？という問題提起が保護者・生徒から起こる中、プレゼン・ディスカッションをし最終的にはタイへ行くのではないかと結論になりました。それからプランによっては津波に対し私達が出来る事を模索し盛り込むことにもしました。

さて迎えた旅行本番!!旅行委員自身、たくさん準備してきたけれど実際旅行はその時になって何が起きるかわからない。皆覚悟はしていたけれど、いざ蓋を開けると小さな問題はあったけれど大幅な変更も無く旅行は本当にスムーズに行ったと思います。この裏には旅行委員の今までの計画の成果、現地での夜のミーティングが大きな意味を持っていたでしょう。最終確認をしたり、反省など



をしたり・・・新見先生の「しっかりせいや!!」は旅行委員の中で語り継がれる事となるでしょう。(笑)また旅行会社の方々・先生・そして学年皆のサポートがあつてこそ成り立つ旅行なので、本当に感謝です コップンカ〜!!最終日ホテルを出る時、予定より5分前に皆が集合してくれたのには点呼係りを初めとする旅行委員もひそかに感動していました。

皆が旅行に求めるものには幅がある。やっぱ思い出作りが一番!!楽しもう!!という人、学校行事だし色々学びたい!!という人。そういった皆1人1人が自分の希望に合わせて出来る旅行というのが今回の旅行の味噌でした。あっさりプラン(半日のプラン)としてマッサージ・ボランティア・市場(フリーマーケット)。そして、こってりプラン(1日かけてするプラン)として料理・宗教・遺跡。タイでの最終日は学年全員で楽しむという象乗りプラン。それ以外の観光や食事、ホテルで過ごす時間etc...、旅行すべてを通して、皆が何らかを吸収したり、楽しめたりした旅行になったならこれほど嬉しい事はありません。

私自身、旅行委員が途中負担になったり、いかに自分に力が無いか悩んだ時期もあったけれど、旅行委員をやってホントに良かったなと終わった今は思います。むしろ、放課後しょっちゅう集まっていた旅行委員のミーティングがなく

なって寂しい思いも少しだけあります。生徒の要望を出来るだけ汲み取り、皆をまとめていく事がこんなに大変とは思わなかったけど、みんなの協力もあり素敵な旅行になったのでホントに良かったです。

長い間私達のちょっと無茶な計画まで実行するお手伝いを全面的にして下さった阪急交通社の穴井さん・生徒に負けない素敵な濃いキャラで旅行をサポートしてくださった大岡さん、頼りになるお姉さんのような木本さん。ミーティングの運営面などでもたくさんのアドバイスを頂きました田中先生・新見先生、体調を気遣ってくださった弥永先生を初めとする先生方。現地のスタッフの方、ガイドの方。保護者の方。旅行にいけなくても応援してくれた学年の友達。そして1年とちょっと頑張ってきた旅行委員の皆。学年全員の皆。旅行に関係してくださった皆様ほんとにありがとうございました。そしてお疲れ様でした。

バイリンガル通信

帰国子女＝バイリンガル＝英語ペラペラ ???

井藤眞由美

英語科

3月28日号のAERAを読まれた方は多いことと思います。「帰国子女知られざる悲哀」というタイトルで、われらがSISのカウンセラー、栗原先生が帰国子女(本校では「帰国生」という言葉を使っていますが)の相談を長年にわたって務めてこられた専門の先生として紹介されています。OIS英語科のドリスキル先生の授業の写真も大きく掲載されています。SISが、帰国生受け入れ校として、創立当初からすばらしいカウンセリングシステムを持ち、帰国生たちの悩みに対応してきた学校であるということを、あらためて誇りに思わせてくれる記事でした。(もし、この記事をお持ちでなく、必要な方はご連絡ください。)

この記事では、「帰国子女＝バイリンガル＝英語ペラペラ」という日本で一般によくある思い込み(注:記事中には「思い込み」ということばは使われていません)によって帰国生が感じる『悲哀』について論じられています。この言葉の響きはあまり心地よくないですし、SISには『悲哀』なるものは存在しないだろうと思うものの、この思い込み等式について少し触れてみたいと思いました。ここには二つの等式が含まれています。一つ目は、「帰国子女＝バイリンガル」という思い込みで、二つ目は、「バイリンガル＝英語ペラペラ」という思い込みです。帰国生であれば当然外国語(英語)ができるはず、という一つ目の思い込みも気になるのですが、今回は二つ目の思い込み、「バイリンガル＝英語ペラペラ」のほうに焦点を当てます。

確かに日本語で「バイリンガル」というと、「＝英語ペラペラ」という捉えられ方をすることが多いようで、そのことが帰国生の悲哀というものに関係する可能性があることは想像に難くありません。AERAに掲載されている「フレンズ帰国生母の会」のアンケートによると、「周りの人はあなたをバイリンガルだと思いますか」という質問に「はい」と答えた人が49%であるのに対し、「あなたは自分自身をバイリンガルと認めますか」という質問に「はい」と答えた人は16%、そしてその理由として一番に挙げられていたのは「外国語力の不足」でした。ここにも「バイリンガル＝英語ペラペラ」という世間の思い込みの影響が見られるようです。

ところでこれは、どこの国においても同様に見られることなのでしょうか、それとも日本独特の現象なのでしょう? どうも日本語の「バイリンガル」ということばには、英語のBilingualという言葉に比べ、独特のニュアンスが含まれている気がしませんか? また、そのことを考えてみると、言語を扱う専門の学者はいったいこのことについてどのような見解を持っているのだろうか? どう定義づけているのだろうか? ということが気になります。

「悲哀なんてありえないとは思ふものの、このことばの持つニュアンスに戸惑ったことがある」という人は多いことでしょう。この機会に『そもそもバイリンガルとはなんぞや?』ということについて考えてみるのはいいかもしれません。冬学期開講の授業Bilingualismで扱ったことを紹介しながら進めていこうと思いますが、その前にまずこの質問に答えてください。「あなたは自分をバイリンガルだと思いますか?」

＜バイリンガル Vs. Bilingual＞

日本語の「バイリンガル」という言葉にどのような特別な、英語にはないニュアンスが含まれているのを感じるか、という討論を授業で行いました。まずは、『英語ペラペラ』という表現に表れているように、日本語と英語のみに限られている。流暢に話すことができないなければならない。ということがあげられました。さらに、「すごいこと」だと思われすぎる(育った環境によっては自然に身についたものであり、特別なことという意識がないのに)。両方の言語を、どんな場面・分野においても等しく完璧に使えるはずと思われる(そんなことありえないのに)。などがあげられました。この4つのすべてが日本語での独特なことなのかというと、実は、と

は、日本での独特のものなのですが、

と については、日本に限ったことではなく、他の国においても一般の(専門家ではないという意味)人がよく持つイメージであるといわれています。ただし、この討論に参加した生徒たちの多くが実際に海外に滞在しての経験から論じているように、この と においても、その限定度合いはどうか日本語で言われるときのほうが圧倒的に強い、という印象があります。つまり日本以外の場所で、または、英語でBilingualというときと比べ、日本語の「バイリンガル」のもつイメージは随分狭義なものであるといえるでしょう。

＜バイリンガルの定義＞

Bi=two と lingual=language が組み合わせられて「二つの言葉」を意味するこの言葉ですが、その定義づけにおいては言語学者たちがこれまでさまざまな試みをしてきました。その歴史を簡単にふり返ってみますと、上の に近い、『二つの言語においてどちらもNative-likeに使える人』(Bloomfield, 1933)というものがスタートでした。しかし実際には、二つの言葉を不自由なく日常使いこなしてはいるが、両方においてNative-likeとまではいえない、という人が圧倒的多数存在するわけで、そういう人たちは明らかにモノリンガルではないのに、バイリンガルでもないのか、という議論が起こりました。それ以来、より現実的なバイリンガルの定義というものをめざして、さまざまな提唱がなされてきました。たとえばHaugenという学者はバイリンガルかモノリンガルかという二極分類をするのではなく、continuum(連続体)としてとらえることを提唱しました(1969)。生活のひとつ以上の場面で2つの言語で意味のある発話ができる人をバイリンガルと呼ぶ、という広範な定義をし、そして、バイリンガルと一言でいってもさまざまなタイプがあり、人はそのバイリンガル度合いを日々、連続体の上で変化させている、という考えです。またMacnamara(1967)は、話す、聞く、読む、書く、

大阪外大の講義を受けることができます

教務センター

概要

期 間 : 4月中旬から7月20日頃 すべて週1回の授業
(一期間につき1つの授業のみ履修できます)

時 間 : 指定された曜日の16:30~18:00(5時限)または18:10~19:40(6時限)

場 所 : 大阪外国語大学のキャンパス

費 用 : 1科目につき5000円程度とテキスト代

対 象 : 2005年4月時点での高等部2年もしくは3年生

内 容 : 下記の講義を大阪外大の学生と一緒に受講することができます。基本的には1年間続く授業の前期分に出席することになります。更に詳しいシラバス(内容)は生徒インフォメーションセンターでもらえます。

単位認定: これらの授業をきちんと履修した時は千里国際学園高等部の単位(総合科目)として1科目につき1単位を認定します。

受講できる科目

現代中東地域論2、英語学概論、アメリカ史概論、イギリス文化概論2、フランス文学概説2、イスパノアメリカ歴史・文化概論、音声学、ドイツ語圏文化講義2、ヒトの科学、日本語教育学概論、国際政治学概論、アルタイ諸語概論、英語文学概論1、フランス研究入門2、ヒトの科学、統計学、日本語学、国際経済学入門、開発・環境基礎ゼミ1、英語国際ビジネスコミュニケーション入門、イギリス文化概論2、フランス研究入門2、英語史、スペイン・イスパノアメリカ文学概論、地域・文化変容論入門、ヨーロッパ・アメリカの社会と文化2、文化史研究方法論、英語文学概論1、アメリカ史概論、スペイン歴史・文化概論、こころとからだの科学、東アジアの社会文化1、東アジアの社会文化2、中東の言語と歴史文化論3、ポルトガル語圏語学概論、中国研究概論1、中国研究概論2、ロシア語学概論

という4つの言語能力のうち一つでもよいから2つ目の言語でも最低限の使用ができればバイリンガルである、と定義づけました。また、言語の「能力」ではなく、日常的に「使用」しているかどうかのポイントであると考える学者(Weinreich, 1968など)もいます。いずれにせよ現在では、スタートであったBloomfieldの狭義な定義づけに賛同する専門家はまずいないようです。二つの言語両方において非常に高い言語能力を持つ人をBalanced Bilingualなどの別な言葉で呼び、バイリンガルという言葉自体の定義はもっとゆるやかであるべきだ、また、バイリンガルの実態は一人ずつ違うものであり、個人のバイリンガル度も日々変化するものだ、というような考えは専門の学者達の間で共有されています。ですが、このことばの正式な定義というものはまだありません。

そこで授業では、これら歴史的な背景に関する文献を読んだ後、自分なりの定義づけをしてもらいました。各自の経験を反映していろいろな定義ができましたが、最も多かったものは<二つの言語環境で、困らない程度のコミュニケーション

ができる人>でした。Macnamaraのいう4つの言語能力の中でも、やはり「話す」能力が一番重要であるという意見が最初は多かったのですが、手話が海外の多くの国では一つの言語と認識されていることなどを学んだあとには、「話す」よりも「コミュニケーション」という言葉がよく用いられるようになりました。ほかに、<頭の中で翻訳することなく二つの言語が使える人><二つの言語文化を体得している人><二つの言語の間の通訳をできる人><両方の言語を愛している人>などがありました。あなたには、これらのうちのどれが一番ぴったりくるでしょうか。どの定義にも「なるほど」とうなずいてもらえるところがあるのではないのでしょうか。

ここでもう一度たずねます。「あなたは自分をバイリンガルだと思いますか?」

人がバイリンガルになる背景はさまざまです。一言に「英語圏で3年暮らししました」といっても、どこの国に、何歳から、誰と暮らし、どんなコミュニティーに住み、どんな学校に行き、どんな友達

ができ、昼食に何を食べ、どんな週末の過ごし方をしていたか、などのさまざまな要因によって、まったく違うタイプのバイリンガルが育ちます。100人いれば100のタイプのバイリンガルが存在するということはSISの日々の生活で誰もが実感していることですが、そこにあるのはタイプの違いであって、優劣ではない、ということも忘れないで。また、一人一人のバイリンガル度もその中身も日々変化しているということも。帰国生であるかどうかにかかわらず、バイリンガルの世界にすでに足を踏み入れているSISのみなさん、さらにたくましくバイリンガリズムを楽しみましょう。

<参考文献>

AERA (朝日新聞社, 2005/3/28)
Life with two languages (Grosjean, Frangaiz.1982)
Bilingualism (Romaine, 1995)
バイリンガリズム (東照二, 2000)

SPP教育連携講座の更なる充実に向けて

昨年度の報告と今年度プログラムへのお誘い

土佐礼子

理科、SPP担当



本校は、文部科学省が支援し大阪大学理学研究科が実施しているSPP（サイエンス・パートナーシップ・プログラム）教育連携講座の連携校として、貴重な科学教育の場を与えていただいています。

これは、毎回興味深い講義内容とグループ実験で、科学の諸テーマについて生徒自らの実感を伴う理解に繋げることを目指したプログラムです。

本校では、理系を目指す生徒には、より広く最新の科学・技術の研究に直に触れることで科学探求への動機を強め、また文系進学の生徒には、今後おそらく触れる機会がないと思われる科学研究の手法を学ぶ貴重な体験学習の場としてSPPを位置づけています。（本学園の特徴と、それを踏まえたSPP取り組みへの基本姿勢につきましては、平成15年度報告書の拙稿をご参照ください。）

このような趣旨から、プログラムの構成・実施形態は化学的分野を軸にしながらも、所謂、物・化・生・地という高校での理科分類を超えた、あるいは統合したものとして、基調テーマのもとに通年で実施日を分散して取り組んでいます。昨年度、熱心にご参加いただいた保護者・戸崎昭二郎様のコメントからも、このSPPへの大きな期待を感じます。依然、模索中の部分もありますが、継続していく中で、さらに新たな分野を取り入れながらより充実したものにしていきたいと考えています。

今年度のプログラムについては、別途案内プリントでお知らせします。高等部

生徒向けのプログラム内容ですが、中等部・高等部保護者のかたもぜひ参加ください。

以下、昨年度の参加生徒感想を紹介します。

1：地球上の生命起源に関する右手系、左手系の化学的性質

・初めてのSPPだったが、考えていたよりも先生のお話は分かり易かった。聞いているうちに少しずつ理解できるようになった。左手

系・右手系ということ自体はあまり考え込む必要のないことだが、それを細かいところまで応用できる科学（化学）はすごいと思った。メモを取った内容をじっくり確認しながら理解を深めてみたいと思っている。

・実験で自分なりにD型の糖の旋光性を確認でき、感動した。またキラリティーが人体にそこまで影響を与えらなかつたのでとても驚いた。

・生命体に含まれているアミノ酸はすべてD型というのに驚いた。ブドウ糖と水の旋光性の違いが良く分かった。

・タイトルの難しい内容かなーと思っていましたが、先生の教え方がとてもやさしく、わかり易かった。TAさんも私たちの質問に丁寧に答えて下さいました。また機会があれば、ブドウ糖以外のものでもためてみたいと思います。

2：自然界を巡る放射性原子核の利用について

・特に何もしていなくても人は常に被爆（年間1～2mSv）しているのは知らなかった。そもそも放射線を気にも留めていなかったのていろいろ勉強になった。

・実験のほうはうまくいかなかったが、その過程が楽しかった。

・SPPへの参加は初めてで不安もありましたが、実際には安心して取り組みました。先生の講義は難しいところもありましたが、実験が苦手な私にとっては、先生や大学生さんのおかげで楽しく終えるこ

とができて本当に良かったです。

・私のグループは（実験は）成功しませんでした。他のグループのを見ることができてよかったし、皆で一緒にやるのが面白く感じました。

3：DNA情報と遺伝子組み換え

・やはりブロッコリーやたまねぎなどの植物からはDNAが取り出しにくく、目視では見難かったが、電気泳動法でははっきり確認できたのがよかった。

・実験は面白かった。しかし実験というものは、きちんと考えても必ず成功することではないらしい。今回、そのことを感じる事ができた。

・世の中で話題になったクローン生物。その生物学的な問題についてもお話が聞けたのは、ためになりました。

・今回は予め質問事項を考えておき、それらの質問にもゆっくり答えていただける時間があつたのがよかった。

4：計算機実験入門

・電子が公転していることは知っていたが、自転しているということ、 α 電子、 β 電子についてはじめて知った。内容は難しかったが、プログラム計算は面白く、本当に勉強になった。

・学校では学ぶことがない電子スピンのしくみの大体の内容についてイメージが得られました。

・「実際、原子って何だろう～？」という中3の頃からの疑問が解けて心なしか晴れ晴れとした気分。混成軌道のお話も、事後学習でsp3、sp2、sp を学ぶ上でも、事前に資料を読んでもさっぱりわからなかったのに比べ、順調に理解する



ことができました。

- ・ すごく難しい分野なのに、意外とすんなり理解できた。阪大生のレクチャーはすごくわかりやすかった。

- ・ 電算機を用いて、光を当てた分子の動



きを見るのは、きわめて愉快でした。

5：生命サイクルと時計反応・振動反応
・ 化学室でする実験はあまり生命の構造と関係しているとは感じられないが、振動反応は、生命に化学は直接関係しているように感じることができた。

- ・ カタストロフィー理論は難しかったが、見たことがあるような図だったので興味深かった。トポロジというニュートンを超える考え方というのには驚いた。

- ・ 講義内容は難しかったが、色が周期的に変化したり、模様成長する実験はとても面白いものだった。

- ・ 実験のときTAさんに理由を聞きながらやっていたので、わかり易かった。自分でも納得しながらできました。はじめは、面白いのか疑問でしたが、やってみるとなかなか楽しかったです。

SPP連携講座に参加して

戸崎昭二郎

保護者

昨(2004)年10月と12月の2回、大阪大学大学院理学研究科と千里国際学園高等部との「教育連携講座」SPPに保護者(参加生徒の祖父)の一人として、参加させていただきましたが、若い高校生みなさんと新しい知見と感動を共有できましたことは、誠に貴重な、そして極めてよき経験でありました。このことに対して、まず、学校当局、及びご担当の先生方、またご指導にあられた大学院の先生方並びに院生みなさんに厚く御礼を申し上げます。

10月のSPPは「細胞からDNAを抽出しよ

う」というテーマで、遺伝子(DNA)を生物の細胞(動物としてブタやトリの肝臓、植物としてブロッコリーなどをサンプルにえらんで)から抽出し、そのDNAの(泳動の)様子を電気泳動装置を通して、観測する実験でした。予想どおりの結果が得られるだろうかという一抹の不安と緊張の中で、各サンプルの細胞からDNAを抽出する作業を体験したあと、それらのDNAを電気泳動装置にかけると、各サンプルのDNAが小さきみに泳動をはじめ、やがて、それが整然と並んで、振動をつづけるのでした。それは、やはり、感動的な光景でした。各グループからも期せずして、歓声があがった程でした。また、12月には、量子化学の分野で化学現象を理論的に予測し、計算機を用いて解明するという研究の一端を、「計算機実験入門」というテーマのもとに、講義をうけ、計算機の操作を通して、体験するというものでした。実際には、講義によって、物質の形や性質などの特徴の根本は化学結合であり、電子の挙動であることを学んだあと、計算機上で分子(例えばベンゼン)の絵を描き、それをPC上のプログラムで計算し、結果を出したわけです。その計算は波動方程式による可成り複雑なもので、それを小数点以下8位、桁数にして11桁もの数字の結果を、わずか数分間で導き出した計算機の威力を改めて実感した次第です(これを手計算で行ったとすると膨大な時間と労力を要したことでしょう)。

このように、2回程参加したSPPの講座では、いずれも現代の科学・技術の最先端のテーマに直接触れ、その研究現場の空気を体験して、大きな知的興奮を覚えました。

まして、SPPの講座に毎回参加して、その都度、大学の一流の先生から直接講義をうけ、実際の実験にたずさわった高校生みなさんは、若々しい感受性に富んでいるだけに、尚のこと、新鮮な感動と、新しい知見を得たよさを感じとっているにちがひありません。そして、科学分野への知的好奇心と、意欲を大いに掻きたてられていることと思います。

こうして、自らが実践し、経験して得た実感、そして新しい発見に胸躍させた

感動。

大阪大学大学院の先生や、千里国際学園の大迫校長先生がSPPの報告書の中で述べておられるように、若い学生さん達が本来心に秘めている自然に対する飽くことのない好奇心や、深い畏敬の念が、自らの実践や、経験によって呼びおこされ、それが本物の実感や感動をひき起こして、更なる知的欲求が高められていく。その本物の実感や、新鮮な感動こそが教育にとって始原的な意味をもつものであると思います。

近年、青少年の学力低下、理科ばなれが危機感をもって語られ、教育の危機が声高に叫ばれていますが、その基本的な原因の一つは、この本物の実感、新鮮な感動を若い人たちの間によび起こせないでいること、生きた「実感」、瑞々しい「感動」を忘れてしまっているところにあるのではないのでしょうか。

こうした現状を考えると、若い高校生の科学・技術への夢と感動を大きく掻きたてる、またとない貴重な場としてのSPP「教育連携講座」の存在意義と、果たすべき役割は、極めて大きく重いものがあると思います。

省みて、私自身、その昔、東京大学の大学祭である五月祭を友人と見学に行った時のことを思い出します。それは、理学部の実験コーナーで、ウィルソン霧箱の実験に出会った時のことです。そこ



で、私は見た(!)のです。電子や放射線などの原子(核)レベルの超微細粒子の飛跡を! はじめて(・・・)、この眼で(・・・)、その軌跡を捉えた(!)のです。この、驚きとも、感嘆とも、何とも云いようのない感動は今も忘れることができません。学生さん達の手作り(むしろ粗末などと言ってよい程の)になる、一見何の変哲もない、ガラス張りの木箱にしか見えない装置の中で、超微細



粒子（それが電子であったか、どんな粒子であったかは忘れましたが）が見せた放物線状の軌跡は、今も脳裡に焼きついていました。そこで見た物は、粒子そのものではなく、粒子（電子もしくは放射線）の飛跡であったのですが、自分のこの目で、「電子を見た！」という感動で全身を貫かれたのでした。その後、故あって、自然科学とは別の道を歩んできましたが、あの時の感銘が、今も自然科学への関心と興味をよび起こし、掻きたてているのだと思っています。（聞けば、かつて、SPPの講座で、ウィルソン霧箱の作成や、そこでの放射線の飛跡を調べる実験が採りあげられたとか。その場に立えなかったことが残念でなりません。）

以上、SPPに参加して感じた所を述べさせていただきましたが、上にも書きましたように、今後のSPPの講座に大いに期待を寄せている一人として、機会があれば、またSPPに参加させていただき、若い生徒さん達と、新鮮な感動と、新しい知見とを共有したいと思っておりますので、よろしくご指導の程お願い申し上げます。

尚、最後に勝手ながら幾つかのお願いを申しあげることをお許しいただきたいと思います。

(1) 2回の参加に際し、テーマや内容に関するレジメをいただき、大いに参考にさせていただきましたが、このレジメを、前以て（SPPの授業の当日や、講義の直前でなく）、テーマや内容がきまりましたら、なるべく早目??何日か前に頂戴できましたならば、予習や、予備知識を得ることができて、授業の効果もさらに高まるものと思われますのでよろしくご高配をお願いいたします。

(2) 上に関して、テーマや内容に即した参考文献??高校生向けに格好の岩波ジュニア新書などもあり、一般教養の新書版程度のもの??の紹介など、よろしくお願

いしたいと思います。

(3) 今後のテーマについて：

「量子力学」におけるもっとも基本的なテーマ??「物質の粒子性と波動性」を実感として捉える実験を、もし、実現できるならば何とか採りあげていただきたいと思います。物質の粒子性についてはアインシュタインの光電効果や、上にも触れた霧箱による電子の飛跡の観測など、またその波動性については、ヤングによる光の干渉の実験や、Davisson-Germerの結晶による電子回折の実験などが知られているようですが、粒子性と波動性を別々ではなく、統一的に、粒子性と波動性をあらかず場面を同時的（全く同時に）というのではなく、一定の時間的経過は必要と思いますが）に捉えられるような実験が出来れば、是非、とりあげていただきたい。実は、光または電子を用いた干渉の実験で、その入射線の強度を次第に弱くしていくと干渉の図像が消えて粒子が一つ一つ観測されるのではないかとといった方向で、実験が行われ、その場面が映像（写真乾板の上で）化されたという話を十数年（あるいはそれ以上）前に聞いたことがあります。もし、この実験が実現すれば、物質が粒子性と波動性の二重性を持つという、物質のもっとも基本的な事象を目のあたりにすることで、参加した高校生の中に、かつてない大きな感動と反響をよびおこすことでありましょう。

本校は、1998年度より、それまでの4学期制から各学期同授業日数の3学期制（60日×3）へと移行しました。4月～6月を春学期、9月～11月を秋学期、12月～3月を冬学期と呼んでいます。

また1999年度には、大阪国際文化中学校・高等学校 (OIA) から千里国際学園中等部・高等部 (SIS) へ校名変更。同時に、中3以上の授業は一部を除いて「学期完結制」となり、高等部では学期ごとに単位が認定されるようになりました。このため、各学期で履修科目、時間割が変わります。

5 respects ポスター最優秀作品



学年だよ！

● 中部部 1 年生 (7 年生)

いよいよ中学生生活開始

高橋寿弥

1 組担任、数学科

7 年生の皆さん、また保護者の皆様、この度は千里国際学園 (Senri International School = SIS) 中部部へのご入学、おめでとうございます。生徒の皆さんは、さぞ夢と希望を膨らませながら、本校での学園生活を満喫しようと思っていることでしょう。校則はありませんが、5 つのリスpekt (自分・他人・環境・学習・リーダーシップに対するリスpekt) をしっかり守って、これからの学園生活にのぞんでいきましょう。

校則がなく「自由である」というのは、逆に「それだけ自分自身責任を持って行動しなければならない」ということです。むしろ他の多くの学校より厳しいことが要求されていると思います。その際、君たちの行動の基準になるのが「5 つのリスpekt」です。言葉でいうのは簡単ですけど、「これを具体的にどのように実践していけばいいの？」というのを、大迫校長先生の「5 つのリスpekt」の授業や、HR (ホームルーム)、また他の授業や学校生活全体の中で、これからしっかり学習していったほしいと思います。

本校には「個性的な先生たち」や「個性的なスタッフの皆さん」、また「個性的な OIS (Osaka International School = OIS) の生徒たち」や「個性的な SIS の先輩たち」がたくさんいます。同じ学年の生徒たちばかりと知り合いになるだけでなく、色々な人たちとの出会いを、これから大切にしていってください！

まず、早速 5 月 28 日 (土) には、大きな学校行事である「学園祭 (School Festival)」があります。学年全体で一致団結して、学園祭成功のためにがんばっていきましょう！！

● 中部部 2 年生 (8 年生)

Five Respects Poster Competition

難波和彦

3 組担任、英語科

8 年生は、去年と同じ担任、1 組 Avery、2 組中尾、3 組難波というメン

バーです。

8 年生としての最初の活動は、4 月 1 日からはじまりました。新しく入ってきた 7 年生に学校の中を案内して回る『スクールツアー』です。最初は案内される 7 年生以上に緊張をしていた生徒もいましたが、学校の中を案内しているうちにすっかり打ち解けて、最後にはいい雰囲気の中庭で、話し込んでいのが見受けられました。入学式の日には、歓迎パーティーを開き、自分たちで司会をして、ゲームや話し合いの機会を持ち、さらに親交を深めました。その後学校が始まってからも、仲良くしているところをよく見かけます。これからもこのような新入生を歓迎する企画は続けていくといいと思います。

7 年生の後半には、多様性・偏見といったことについて、LHR でアクティビティーなどをしながら学んで来ましたが、その最後の締めくくりに 5 respects についてのポスターを作り、学校の中に掲示し、全校生徒の投票をしてもらう、という企画を 7 年生の終わりから 8 年生のはじめにかけて行いました。生徒たちは 2 人 1 組で、それぞれ respect for self, respect for others, respect for environment, respect for learning, respect for leadership の中のひとつのテーマについて話し合い、ポスターを描いて、図書館前、カフェテリアなどに貼り出し、投票をしてもらいました。

「この学校は何でも自由」「規則がないのはいいこと」というような考えが、いろんな場所で聞かれますが、それは 5 respects を守った上で、成り立つことで、そうでないと単なる『無秩序』状態を作り出すだけです。今回の 5 respects のポスターづくりをする中で、このことがわれわれの学園にとって、どれだけ大きなことか、ある意味で「規則」や「校則」よりももっと大事な、守らなければいけないものであることを認識してくれば、いいなと考えています。

投票の結果、各 respect の最優秀作品に選ばれたのは、次のみなさんです。おめでとう。Respect for Others : 島田さつき、宮地みれい。Respect for Self : 谷口めぐみ、為岡わかこ。Respect for Learning : 大路わこ、金山いずみ、佐藤まさし。Respect for Environment : 中村あすか、松村あおい。Respect for

Leadership : 芦田ゆきの、目連えみ。(左ページに写真)

● 中部部 3 年生 (9 年生)

新学期に向けて

松島 勇

1 組担任、国語科

四月になり、中学 3 年生は 3 人の編入生を迎え、66 名で新しいスタートを切りました。担任団も新しくなり、社会科の野島先生と国語科・新任の岡本先生が加わりました。今まで担任であった水口先生、レイ先生ありがとうございました。野島先生、岡本先生、よろしくお願いします。

さて、千里国際学園は中高がつながっているのあまり意識されませんが、中学 3 年生は義務教育の最後の年です。そういう意味で大きな節目の学年です。学校行事の中にも中学 3 年生だけの行事があるのも同じ理由ではないかと思っています。全員参加ではありませんが、夏には、オーストラリアでのホームステイプログラムがありますし、秋には宿泊を伴う学年旅行があります。そしてその後には、中部部の卒業式があります。中高 6 年間の中の一休みの時期に思われそうなのこの一年ですが、どうして休んでなどいられましょうか。この三つを頑張るだけでもなかなか充実した一年に出来そうです。この学校は、皆さんの自主性を伸ばす教育を目指してきました。皆さんもこの学校でもう 2 年間教育を受けてきた以上、自分で行動していくことの大切さを十分に学んでくれたと思います。ですから、是非これらの行事に主体的に取り組んでほしいと思います。学校が用意するのは、大まかな枠組みだけです。その中身がどうなるかは、皆さんの努力にかかっていると思います。学年旅行の場所もまだ決まっていませんし、卒業式のプログラムもこれから決まります。「エー、面倒くさい」など思わずに、「どんなふうしよう」、「面白そう、やってみよう」と思ってください。そう思って取り組んでいくことで、本当の意味での自分たちの行事になると思います。そして、実際に行動してみてこそ自分たちに身についたもの、まだまだ足りないものが見えてくれるのではないかと思います。それがしっかりと自覚できるようになれば、次に自分が目指すものが

わかってくるのではないのでしょうか。

最初のLHRでもこの行事の話をしました。簡単な説明だけだったのですが、結構興味を持ってくれているように思えました。まずまず良い出だしだと思います。この調子でこの一年間を、中学生生活の仕上げとして、実りあるものとしましょう。

●高等部1年生(10年生)

私の60年代70年代

馬場博史

1組担任、数学科

高等部1年生は、内部進学生54名に外部からの入学生21名が加わり、75名でスタートしました。担任は、持ち上がりの3組難波フランス先生に、1組馬場、2組見島直子先生、4組土佐礼子先生が新たに加わりました。

私は数学の授業以外では、広報センターという部署で、広報誌「インターカルチャー」や、研究紀要(定期的に刊行される授業実践報告・研究論文集)の編集・発行、学園ホームページの作成・更新等の仕事をしています。クラブはトライアスロンクラブとランニングクラブの顧問です。今年はいつもの年と違い、中高生だけでなくOISの小学生(最年少は小3)も加入してにぎやかになりました。私も毎日一緒に練習しています。また学外では、大阪府トライアスロン協会の理事を務めています。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、新年度を迎えて早速学園祭の準備が始まっています。今年のテーマは「60年代70年代」ということなので、保護者の皆様の世代が楽しめるような内容になるのではないかと思います。この年代にまだ生まれていなかった若い生徒たちが、どのように工夫してその時代の雰囲気創造するのか楽しみです。

私にとって60年代といえばなんと言っても東京オリンピックです。マラソンで円谷幸吉という選手がゴール前に抜かれて3位になったシーンが最も心に残っています。また70年代といえば、ピンク・フロイドというバンドが好きで、正規のレコード以外に海賊版をいくつも買って聴いていました。機会がありましたら、みなさんの「60年代70年代」を聞かせて下さい。

●高等部2年生(11年生)

学園のリーダーとして

相良宗孝

2組担任、保健体育科

この4月に影山亜梨沙さん(2組)西小野薫子さん(3組)を迎え、総勢92名の学年集団として11年生がスタートしました。担任団は1組木村先生(国語)、2組相良(保健体育)、3組水口先生(英語)、4組田中先生(数学)、5組山本先生(英語)の新体制になりました。今年度も、この学年はクラスの枠をはずして、学年として見ていきたいと考えています。どうぞよろしくおねがいします。

さて、早いもので今年度は、高校生活でも中盤戦になり、授業はもちろんのこと、課外活動や、学校活動などのイベントにも、もっとも忙しい時期を迎えます。今学期には学園祭で、学園の中心学年としてミドルスクールや新高校1年生の見本になれるように学年全体で大いに盛り上げなければなりません。また、前年度から持ち越しになっている学年の映画作りの活動や、11年の最大のイベントとしての学年旅行もあります。この色々なイベントの機会にしっかりリーダーシップを発揮してください。去年までは、なんとなく誰かがやるだろうと遠慮していた人や、やる気がいまいち湧かなかった人も、積極的に自分を盛り上げて、全員で力をあわせて、最高に素晴らしいものを作りましょう。さあ、立ち上がれ学園のリーダーになるべき若者よ～！今年度も盛り上がった最高の1年にしましょう。

●高等部3年生(12年生)

強力な布陣です

新見真人

4組担任、理科

今日、4月9日(土)、万博記念公園へ満開の桜を見に行きました。公園へは自宅から自転車で10分くらいです。中等部3年生の末娘にも一緒に行こうと誘ったのですが、断られたので、妻と二人で、大勢のお花見客に混じって、園内の見事に咲き誇った桜の花を觀賞しながら同時にたくさん写真も撮ってきました。我々も若い頃はお花見などにあまり関心は持ちませんでしたから仕方がないのでしょうか。

さて、SIS高等部12年生の生徒と保護者の皆さん、大変お久しぶりです。ちょうど、丸一年になりますね。今年度、思いもかけなかったことですが、諸事情から再度、4組の担任としても皆さんと深い関わりを持たせていただくことになりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

生徒の皆さんへ：SISでの最終学年としての勉学とさまざまな活動の総まとめをしていくことになりますが、その教科の指導・活動の援助・進路情報の提供や進路関係のアドバイスを担任団の一人として精一杯していく覚悟でいます。春休み中のタイへの学年旅行に引率教員の一人として同行し、高等部1年生の時の皆さんから比べると見違えるように大きく成長したあなた方の活躍(特に、旅行委員のリーダーシップと参加者全員の協力的な態度と行動)に深く感心いたしました。大きな病気や事故や怪我も無くとても楽しい思い出に残るすばらしい旅行になりました。皆さん、どうもありがとう。“最後の・・・”という言葉がどうしても付いてしまう、今年度の諸活動に最高の12年生として下級生の良き手本と目標となれるように、皆さん全員の力を合わせて、常に新しい発想を抱き、創意工夫を凝らし、失敗を恐れず果敢に挑戦し、SIS高等部をさらに魅力に溢れた場所にして行きましょう。春学期から高松舞さん(1組)と早瀬麻衣さん(4組)が新しくこの学年に加わり、4人のMaiさんになりました。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。

保護者の皆さんへ：3月に私の長男がSIS高等部を卒業し、来週からはいよいよ関東の大学での授業が始まるようです。受験生を持った保護者としてのこの経験も生かして、皆さんのお子様の進路関係のアドバイスをしっかりしていきたいと思っています。学年の担任の田中守先生、福島先生、志垣先生はもちろんのこと、進路情報室担当の松島先生、見島先生、さらに進路情報室前担当・前担任の池田先生、また海外の大学への進路担当のステンガー先生という強力な布陣で、生徒の皆さんの大切な進路の相談に当たっていきます。ご質問事項、ご心配事等がありましたら、上記のメンバーの誰にでも遠慮なく、お問い合わせください。

英検1級に3名合格

語学等資格試験の報告

英検1級に3名合格

水口 香

英語科

2005年4月14日までに報告があった、2004年度第3回英語検定試験(2005年1月実施)の結果をお知らせいたします。今回の試験では、1級に中尾紀子さん(11年生)、大川誠治君(11年生)、松本明子さん(10年生)がみごと合格しました。

さらに大川誠司君は優良賞を、また準1級に合格した伊丹夏子さん(11年生)は優秀賞を授与されました。

今回も幅広い学年から合格者がありました。合格された皆さん本当におめでとうございます。皆さんのさらなる飛躍を楽しみにしています。

<2004年度第3回英語検定試験の結果>

1級	3名
準1級	3名
2級	10名
準2級	1名
3級	1名



中尾紀子さん(11年生)



大川誠治君(11年生)



松本明子さん(10年生)

新年度がスタートし、本年度のスピーチコンテスト、エッセイコンテストの募集要項が届くようになりました。自分の力を試してみたい、コンテストに挑戦してみたいという方は、英語科まで来てください。

他にも語学等資格試験合格の報告がありましたらお知らせください。この欄で紹介します。(馬場)

漢字能力検定試験2級合格

高等部3年崔賀英さんが平成17年度第11回文部科学省認定日本漢字能力検定試験2級に合格しました。おめでとうございます。

自分の体を大切に(Respect for self)

弥永千穂

保健室

いろんな健康診断に協力してくれてありがとう。自分の身体の変化に気づいたかな?あと残るのは歯科検診です。学校で行う健康診断はみんなが元気に学校生活を送れるように何か病気のサインがでていないか探すものです。健康診断の結果でくわしい検査が必要な場合や検査を受けられなかった場合は担任の先生を通してお手紙を渡しています。お手紙をもらった生徒は必ず検査を受けに行きましょう。何か心配事、この身長にこの体重は大丈夫?などあれば保健室まで相談に来てくださいね。そろそろメガネが必要な生徒は早めに準備すると成績やスポーツの腕もあがるかもしれませんよ。さて、5月に入ってからみなさんの体調はどうですか?新しいクラス、新しいお友達、長い通学時間など変化があって楽しさももちろんあるけれど、もしかしたらすこしお疲れ気味かもしれませんね。そんな時は

まずは自分の生活を振り返ってみましょう。休む時間は?スケジュールがびっしりつまってランチがない?授業中にいつも寝てしまう?PE(保健体育)以外では身体動かしてない?身体が元気であれば勉強もうまくいくし、楽しみが広がります。保健室の役割のひとつは「健康指導」です。ちょっと身体の調子がいつもと違ったり、健康の事で困ったらまずは気軽に相談を。授業の合間はケアを必要とする生徒が多いので、ゆっくり話すためには放課後やアンスケの時間にのぞいてくださいね。話していく中ですこし解決方法が見つかるかもしれません。健康第1で学校生活を楽しみましょう!

異動のお知らせ

<新任>

岡本茉莉

国語科

はじめまして、岡本茉莉です。新しく千里国際学園に国語科教員として勤務させていただくことになりました。現在9年2組の担任も持たせていただいています。



私は奈良県の出身なのですが、中学生の時には父の仕事の都合でアメリカで過ごしていました。日本に帰国してからは京都の高校・大学に通い、高校時代は陸上競技、大学時代はテニスや野外活動（キャンプ・旅行など）等に力を入れた学生生活を送りました。大学卒業後は大阪に移り、去年まで大阪工業大学高等学校で一年間、国語を教えていました。

そしてこの四月からまた新たなスタートを切らせていただきました。まだまだ教師経験も浅く、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、とにかく今の私にできる精一杯のことを、常にやっていきたいと思っています。素直で元気な生徒たちに負けないくらい成長していきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

Christine Mills

English

Hello everybody. My name is Mrs. Christine Mills and I have just started life as an SIS full time teacher in the English Department. Actually, I have



been working in this department since November of last year when I was filling in for teachers who were absent.

My home country is New Zealand but I have been living and working in Japan for a long time over the last 13 years. I originally came to Japan in 1992 when my husband got a job working as a rugby coach for

Sendai Ikuei Gakuen. We spent 3 years in Sendai at this time and did a lot of traveling around the rest of Japan and some other parts of Asia too.

When my husband's contract finished we went back to New Zealand and we lived in the country and built a large house which was a home stay for foreign students. We spent six years teaching at the local college and running this home stay / language school.

In 2001, we got the chance to come back to Japan and we worked again for Sendai Ikuei Gakuen for one year. In 2002, we were able to move to jobs at the international school in Sendai ? Tohoku International School. We worked there for one year and then, in 2003, we moved to Osaka International School and we have stayed here since then.

My husband works for OIS, teaching middle school English and Social Studies and my children both attend OIS. Jessica is in grade 7 and Scott is in grade 3. We also have two other children but they are grown up now and live in New Zealand.

I am happy to be working for SIS and so far I am enjoying my classes very much. Thank you for welcoming me into your school.

Craig Munday

English

Greetings. My name is Craig Munday and I am the new part time teacher for the SIS English department. I am very happy to be able to stay on at the school on a more permanent basis after providing substitute teaching support to the English department since November of last year.



The past two years has seen somewhat of a change in my career direction. Prior to my initial English teacher training, I was working in medical research and teaching at the University of Birmingham in the UK. It was my many enjoyable experiences aiding foreign visiting researchers and University

students for whom English was a second language that first prompted me to look at teaching English as a profession.

I look forward to getting to know you all more over the coming months.

伊藤史織

情報科

はじめまして。SIS情報科の非常勤講師、伊藤史織です。以前、同志社国際のコミュニケーションセンターでスタッフを、その後HPや映像、DTP制作関係の仕事などをしていました。



最初にこの学校を訪れたとき、光がいっぱいあふれた穏やかな空間という印象を強く受けました。世にも珍しいこの学校にとっても興味が湧いて、働いてみたい！と強く感じたのを覚えています。「5リスペクト」がとても気に入っていますし、常に忘れないでいたいと思っています。

この学校で皆さんと共に学び、多くの人と知り合い、多くのことを吸収し、自分の世界を広げていきたいです。教師をするのは初めてで大変未熟な私ですが、皆さんに有意義な時間を提供できるように、精一杯工夫して面白くて役立つ授業を作っていきたいなと思っています。がんばりますので、どうぞよろしくお願い致します。

金廣植 (Kim Kwang-sik)

韓国語

アンニョンハセヨ(こんにちは)。4月から韓国語を教えており、大変楽しく生活しています。私は韓国漢陽大学院修士課程で日本文化を学び、日本国外務省のJET



プログラムに参加し、石川県庁国際課で国際交流員(CIR)として石川県と韓国との国際交流における沢山の韓国語・文化講座と通訳・翻訳などを担当しました。

(次ページ★に続く)

インターカルチャ100号記念特集記事募集

インターカルチャは、次号（6月中旬発行予定）で第100号を迎えます。ひとつの通過点ではありますが、開校15年目を迎えることもあり、区切りの良い数字なので何か特集を組もうと考えました。そこで次のテーマで、教職員・生徒・卒業生・保護者等の学園関係者すべての方から広く原稿を募集しています。

「ふたつの学校がここにあること」（仮題）

SISとOISが共存していることならではのエピソードで、良かったこと・楽しかったこと・面白かったこと・困ったこと・苦労したこと等々何でも結構です。

E-mailでの受付けます。字数制限は設けませんが、必ずタイトルをつけてください。一緒に掲載したい写真があれば、JPEGファイルで添付してください。いただいた文章は極力掲載したいので、多数の場合、連載することを考えています。（馬場）

プレイバックインターカルチャ（1998/05より）

98年度、そして春学期（抜粋）

大迫弘和

副校長（当時）

OIA（現SIS）にとって八度目の春です。

昨年度来お知らせしていますように、これまでの七年間の実績をベースに、本年度から学期の制度を変更します。

これまで年間を学期としては4学期に分け、さらに通常学期とは別にサマープログラムと呼称された3週間の期間をおいてきました。年間180日の授業は、各学期40数日のペースで組み立てられてきたわけですが、このペースをもう少し余裕のあるものに変え、ゆったりと学園生活を送れるよう、60日ペースとすることにしました。

具体的には4月から7月初めまでの60日を春学期、9月から11月までを秋学期の60日、12月から3月までを冬学期の60日とします。

この学期変更は「OISとの合同カレンダー」というものを可能にしていこうとい

う要素もあります。これまでは6月中下旬のOIAのみの授業をはじめ、OIA/OISが実質的には別の動きをしているところがあったのですが、OIA/OISが一つの合同統一カレンダーのもと、より深い関係を作っていけるよう、99年度を目標に準備を進めています。99年6月からはOISもOIAと同じように月末まで授業を実施することは既に決定しています。1学期・2学期・3学期とは呼ばず、OIA/OISともに各学期を春学期・秋学期・冬学期と呼称しているのも、その関係です。（OISもこの9月から3学期制になります。）

春学期の大きな枠組みは以下の通りです。

今年の春学期は4月7日から7月3日までの間に60日、登校日があります。その中に5月の学園祭、7月の宿泊行事週間を含んでいます。春学期の途中、今年度に限っては6月中旬でOISは学期を終了しますが、来年度からは、学期の最後まで一緒になります。宿泊行事週間につきましてはOISとの合同との視点から来年度

以降につきましては現在検討中です。

ここまでの内容より、今年度を新たな出発点として、千里国際学園が歩もうとしている方向を、読み取っていただければ幸いです。

これから保護者の皆様からは率直なご意見をいただけますようお願いいたします。学園としては、栗原先生を常勤のカウンセラーとしてお願いしており、保護者の皆様とカウンセラーとが心を開いた関係をもっていただけることを願ってきましたことは、既に皆様ご承知の通りです。カウンセラーとのそのような関係は何とぞ今後も大切にしていきたいと思いますようお願いいたしますと同時に、学校の方針の問題、日々の教育実践上の問題等、学校組織としての根幹的な問題につきまして気になるところがございましたら、どうぞアドミニストレイターの方に直接お話しいただけますよう、最後にお願ひいたしておきます。

それでは、よい一年になりますように。

（★前ページの続き）

2001年から3年間、様々な日韓交流に携わることができました。例えば、経済交流はもちろんのこと文化・行政・学術・青少年・スポーツ・農業・観光・教育・市民団体などの国際交流における業務を経験しました。また小・中・高校における国際理解教室で、韓国語・文化理解講座、修学旅行事前研修の講師を務めました。

私は韓国を紹介する中で、日韓文化を

より本格的に研究したいという希望を抱き、2004年から大阪大学大学院の博士課程に進学し、民俗学者柳田国男を手がかりとして日韓文化史・思想史を学んでいます。

これまでの様々な国際交流を通して学んだ経験を生かして、今後も千里国際学園で韓国語指導を通して楽しく有意義な交流ができれば、と強く望んでいます。読んで頂きカムサハンミダ（ありがとう

ございました）。

< 退任 >

井嶋 悠（国語）

北村庸子（情報）

青山周平（社会）

山田博康（社会）

上岸 宏（事務）

千里国際学園図書館へようこそ！

青山比呂乃

図書館

* 図書館紹介

新入生、編入生のみなさん、その保護者のみなさん、入学おめでとうございます。そして図書館へもようこそ！図書館は、学園の玄関に入った直ぐ目の前にあります。右手のガラス戸から入ってください。

OISとSIS全体のための場所なので、幼稚園から高校生、さらに教職員、保護者も皆で使う図書館です。現在蔵書は、日本語約29,500冊、英語約26,000冊、合わせて約55,500冊。新聞は日刊紙だけで、日4タイトル英3タイトル、雑誌も寄贈・購入、日英ほか中・葡・独合わせて、130タイトルくらいです。また、本や雑誌記事を探すためのコンピュータ（OPAC）が6台、生徒が自由に使えるコンピュータも6台あり、宿題や調べ物に使えます。

2階のマルチメディアフロアには、ビデオ・DVD・CDなどのニューメディア資料も1000点以上あって、空き時間にはヘッドホンを借りて視聴することができます。また、スペイン・フランス・ドイツ・中国・韓国の5つの第2外国語の本も少しだけあって（これから増やしていく予定）、2階にしています。英語を中心とした各種語学検定試験の問題集や、貸出可能な大学進路資料もあります。

図書館は、授業のある日はいつも、朝8時から夕方4時半まで（マルチメディアフロアは、8時半から4時まで）開館しています。中高生は、それぞれの昼休みや空き時間、放課後には自由に図書館を利用できますし、授業のときに皆で図書館に来て、資料を探したり本を借りたりすることも多いはず。OIS小学生は週1回担任の先生に連れられてお話を聞きにきて本を借りていきます。月1回は日本語の授業で図書館にきて紙芝居を見たりもします。

また4時半からは、中高生のための開館延長もしています。必要事項を図書館の貸出デスクで用紙に記入すれば、スタッフの監督下、最長6時まで残って勉強や読書を行うことができます。ただし、8年生までは、許可証に授業担当が担任の先生のサインをもらうことが必要です。許可証の用紙はデスクにあります。



機会がありましたら、保護者の皆さんもいつでも訪問してください。保護者の方々が読書にいそしむ姿は、生徒たちにも良い影響を与えると思います。この

図書館では保護者も登録すれば本を借りる事ができます。ただし、利用規則は生徒と同じで、生徒の利用に支障のない範囲に限られます。詳しくは、お気軽に図書館までお問い合わせください。



なお、図書館には今2名の司書教諭（ワット・青山）と4名の図書館スタッフ（木下・川端・宮本・ダッタ）が働いています。図書館スタッフは司書として毎日働いていますが、1日中ではなく時間で交替しています。皆さんからのリクエストなどがきちんとお互いに伝わるように工夫していますので、よろしくをお願いします。

* 蔵書点検報告

蔵書点検は、毎年恒例で生徒ボランティアを募って行っています。今回は、3月16日17日にすべての日本語図書(point)の点検をしました。最初なかなか人が集まらず、どうなるかと心配していたのですが、16名の中学生と2名の高校生（現学年のGr8：10名Gr9：2名Gr10：4名Gr11：2名）、総勢18名がパッチリ働いてくれました。

半日だけの人も丸2日の人も、ベテランの上級生も初めての人も、本当にとても良く働いてくれて、毎年約1千5百冊づつ増えている蔵書データをすべて入力し終える事ができました。今回は、現8年生が10名でどうかな？と思ったのですが、文句は言いつつも、みんなそれぞれによく働いていました。上級生のベテランの人たちが、時に下級生を指導しながら、もくもくと仕事をこなしている姿も印象的でした。ボランティアの皆さん、本当にありがとう。お疲れ様でした。

その結果の昨年度分の行方不明の図書リストは、現在最終チェック中で、次回のインターカルチャで報告します。皆さん、教室などで誰も借りたかわからない、図書館のラベルのついた本を見かけたら、是非、図書館へ持ってきてください。誰かがなくて、必死で探している事がありますので。（ちなみに本をなくすと、買ったときの値段で弁償する事になっています！）

* 日本語図書歴代貸出記録

ここ数年のインターカルチャで、日本語図書最多貸出記録の報告をしています。今回も、第1位の記録が破られる事はありませんでしたが、3月に卒業した学年の3位までと、今までの歴代の記録を紹介します。

（次ページ★に続く）

ロボカップジュニア大阪大会1位

科学部

飯塚 諒
まこと
高等部1年

ダンスの部：ブラドリーポーラ、ブラドリーあいしゃ、飯塚マコト、山本舞

「世界大会なんて行きたいねー」とかで始まった。今年大阪で、ロボカップジュニアの世界大会が開かれるらしい。

ロボカップには、自律型のロボットを作らなければならない。リモコン操作のロボットは出場できないそうだ。大会はサッカー、レスキュー、ダンスの三つのジャンルに分かれている。サッカーのジャンルの出場者は特に多く、レスキューとダンスのジャンルは最近できたので、出場者が少ない。人前で踊るなんて恥ずかしいので、ダンスはレスキューよりもさらに出場者が少ない。これはいけるかとも思ひ、私達はダンスのジャンルを選択した。志願した目的は世界大会に出場すること。世界大会に出場することだけが目標で、ロボットを作り始めた。とはいっても、ロボットに関して全くの無知。何をどうしたらいいのかわからない状態。グループの皆が集まっても、何をしたらいいのかわからず、なにもせずに終わってしまうことがしばしばあった。なにかしようと思ひ、おもちゃ屋のトイザラスで、ガンダムのプラモデルを買って組み立てた。

「プラモデルだけじゃ、勝てるわけがない。オリジナルティーのあるロボット？をつくらねければ・・・」と話し合っ、一から自作のロボットを作ることにした。二足歩行はバランスがとれないので、四足の犬を作ることになった。さっそく木を集めて、くっつけてみた。途中で、木だと重たすぎて動

かないことに気づいて、全部「発砲スチロール」で作ってみた。「発砲スチロール」のロボットは前代未聞であり、普通は

プラスチックで作るらしい。まあ、なんとかなるだろうってな感じで。もちろん動かなかった。でも、地区大会まであと数日と迫っていたので、前に作ったガンダムのプラモデルと、動かない犬のロボットで、大会に挑んだ。ロボットは絶句するほどもろいので、人間のダンスに力を注いだ。というのは、ダンスの部はロボットと人間と一緒に踊るとというのがコンセプトで、人間のダンスも審査の対象になるそうだ。

地区大会本番当日、ロボットが動かないことを隠すため、ブラドリーさんのアイデアで「犬は病気である」というストーリーを作り、ごまかしてみた。人間のダンスでスコアを伸ばし、次の大会に出場可能な2位だった。

次の大会は、大阪大会。「次、ロボット動かなかったらヤバイねー。」とか笑いながら、準備した。

今度は、イヌのロボットを改良して、見た目が劇的進化を遂げた。さらに、動きも進化した。ガンダムはあまりにも酷なので、サッカーの部門のチームからロボットを借りて、その上にぬいぐるみを乗せてみた。なんとか形にはなったので、クモのぬいぐるみとクマのぬいぐるみを乗せて大会に挑んだ。ロボットの技術は、他のチームと比べて著しく劣っているのに、人間のダンスを、もっとハードにした。結果は一位！ ロボコンというかダンスコンテストみたいな形になったけど、一応勝った。そんな流れで、今度は全国大会です。全国大会で、勝ち進んだら世界大会。「もし勝てたら、夢が実現するかもー」とか思いながら取り組んでいます。



(★前ページの続き)

2005年3月卒業生日本語図書最多貸出記録(6年間在籍)

- 1位：曹 千紘さん 328冊
- 2位：仲谷 環さん 189冊 (4年半在籍)
- 3位：保城早耶香さん 162冊

1997～2005年歴代卒業生最多貸出記録

- 1位：2002年 刺賀蘭里さん 1043冊
- 2位：2002年 新井隼子さん 445冊
- 3位：1998年 沼田貴範くん 376冊
- 4位：2003年 角田 瞳さん 346冊
- 5位：2001年 松宮寧子さん 328冊
- 2003年 伊藤 愛さん 328冊
- 2005年 曹 千紘さん 328冊

- 6位：2004年 有田 梓さん 305冊
- 7位：1999年 井上愛子さん 302冊
- 8位：1997年 廣瀬裕紀子さん 291冊

残念ながら、コンピュータシステム上の違いから、英語図書の記録はありません。図書館に読みたい本、使える本がなかったのかもしれないし、借りたから読んだというわけでもない。借りずに使っていた人もいでしょう。みんな在籍期間も違ひ、英語ならたくさん借りたのに！という人もい。そういう意味では、簡単には誰が一番とは言えないのですが、一つの記録としてみてください。

皆さんもたくさん借りて、せっかくの図書館をとことん使ってみませんか。

音楽行事に寄せて

森 路佳

音楽科

<APAC BAND>

今年は上海アメリカンスクール(SAS)で開かれ、大盛況のうちに終わりました。関西空港までのバスでは“買い物即席中国語”をもっぱら覚えている様子が何ともおもしろかったですね！空港に降り立ち、私はAPACバレーのことを思い出しました。台風シーズンの最中であって、当日のみ“超あやふやな悪天候”に見舞われ、結局中止となったのです。あの時、先月卒業していった12年生たちが、“先生！お願い！連れて行って！今まで本当に泣きながらがんばってきたの！お願い先生！何でもするから・・・ねっ・・・”と涙をこらえつつもうっすら浮かべながら言ってきたのを今でも覚えています。間違いなく前代未聞の最強女子チーム、ずっと勝ちすすんでノリまくりの男子チーム・・・“なぜ今年の今日に限って・・・”その時と全く同じ場所に、同じ上海へ向かって、同じスクールジャケットで今度はたくさんの楽器と一緒に皆で集合していました。“行ってくるね。きっと体育館も見えてくるから・・・”心にそんな思いを秘めながら、いざ上海へ。さすが中国経済の成長だけあって、空港は長蛇の列！税関を並んで抜けるだけで1時間半もかかってしまいました。荷物のテーブル表記も間違っており、やっと出ても出口違いではぐれたりとてんやわんやしながら、やっとSASの方々と会うことができ、バスでキャンパスへ。想像以上に近代的な街中を抜け、夜分に郊外のキャンパスに到着。“ちょ～先生！こんなあり！？めっちゃ広すぎるやん！うちの学校なんぼ入んねんなん！まじ～！”感嘆のうちに無事にホームステイの方々とお会いし、次の日より練習がはじまりました。SIS・OISの生徒はどのパートでも席次の良い場所におり、私もモロッコ先生も見えていて大変誇りに思いました。“練習の時には必ずペンを用意して”“演奏する前にまず聞かなくては音が死んでしまうよ！”“下を向いてはどうかやって私の指揮のメッセージを受け取ってテンポ

をみるの！？”本当に大切なことをたくさん話して下さる素敵な指揮者の方のもと、たった数日とはいえ、みごとに成長していききました。滞在中の楽しみの一つはやっぱり買い物でしたね！みんな大阪の学校にあってか、値切り上手でしたよ！中国語の堪能な田村佳架さん、牧野良さん、通訳に料理の注文にと快く引き受けてくれてありがとうございました！コンサート当日、ステージの生徒たちは緊張した顔立ちの中にも晴れ晴れと胸を張って演奏し、非常に感動的なコンサートとなりました。

学校代表として団体行動するときに、どうしても普段の自分のペース通りにいなくなってしまうときがあります。生徒の皆さんはどうでしたか？ちょっと残念だったのは、初日におかしなごみがSIS・OISのところだけに散らばっていたままになっていたことですね。(普段も音楽室でよく見受けまよ・・・)良いふるまい(サウンド)を皆で作るときのように、自分で考えて行動する(感じて歌いこむ)中で、まず全体のルール(テンポ)を守ることは5リスペクト(アンサンブル)とも大きく関わりを持つ大切なことですね。ですがどこにいても笑顔と、何よりも人間関係の基本となる挨拶が本当にすばらしい生徒の皆さんと一緒に今回のAPACに行けて、先生は大変誇りに思いました。それにしても上海は寒かったですね！でもハートの暖かい皆さんと作った思い出やサウンドはいつまでも先生を含めた皆さんの心にきつといつまでも冷めることなく残っていくでしょう！陰で支えてくださった保護者の方々や先生方に感謝の気持ちを忘れないうで、また次の機会にチャレンジしていったほしいと思います。

<教員コンサート>

今年で2度目となるこのコンサートは、普段舞台上で演奏する生徒のみなさんが客席で、普段客席から舞台を見ている先生方が舞台上でパフォーマンスをする、なんとも楽しい企画！OISの12年生担当のMr.BergとMr.Murrayが Habitat for Hu-

manity の活動の一環としてSeniorの生徒と共に企画していただきました。陽気な歌声とギターのMr.Watt、きらりと光る眼をした難波先生はピアノ演奏でもきらりとひかるテクニックとセンスの持ち主！夫婦で楽しく出でくださったMr & Mrs. Mills や大迫先生夫妻、なんとも不思議にまぶたをぱちくりさせるかわりに耳がぱちくりなるような、何とも不思議なサウンドを不思議な眼鏡の衣装で奏でくださった野島先生、SIS教員きっての歌姫・井藤先生は今回はしっかりと大人なナンバーでその声を響かせてくださいました。“えっ！14個もいすがあって・・・”何を隠そう“先生方かくし芸兼一発芸オーケストラ”でした。演奏なんてなんのその！その迫力がすごかったですね！いやぁおもしろいメンバーの先生方が舞台に揃って圧巻でした！圧巻といえ、今年も魅せてくれましたMr.McGillのアコーディオンによるパフォーマンス！Mr.Maroccoのチューバと共に演奏してくださり、それにあわせて大迫先生、Mr.Heimar, OIS事務長のJim Schellさんらの立派な男性の先生方が、それはそれは立派な“舞”を“Mr.Heimarのユニフォーム”で揃えて披露(疲労！？)して下さいました。あの華麗なステップはいつどこでマスターされたのでしょうかね！？次はAPACの応援団に潜んでいるやもしれません！コンサートナンバーの最後はMr.Driskill, Mr.Ray, 福島先生をはじめアシスタントの生徒が加わってのバンド演奏でした。会場となったシアターの熱気は最高潮に達し、すばらしいコンサートの締めくくりに“cool”なナンバーを披露してくださいました。ふだん教壇で見る先生方の、また異なったすばらしい一面が歌や楽器と共にシアターにあふれ、見に来てくださった生徒や保護者のみなさんも存分に楽しめたことでしょう。また、SIS・OISの学校枠を超え、音楽を通じて様々な先生方が一つのものを共に作り上げるすばらしい機会がある、このことも忘れてはならない本校ゆえの大きな喜びでしょ

五嶋みどりさんと共演します

HSストリング・アンサンブル

◆ミュージック・シェアリング・スペシャル・コンサート～最終章～

特定非営利活動法人ミュージック・シェアリングが1997年より毎年開催してきたウィークエンド/スペシャル・コンサートの集大成として、これまで「オーケストラ訪問」で交流を持った全国各地のジュニア/ユース・オーケストラなどから出演を募って「スペシャル・コンサート～最終章～」を開催することとなり、本学園HSストリング・アンサンブルがバイオリニストの五嶋みどりさんと共演することになりました。

◇大阪公演

2005年6月5日(日)NHK大阪ホール

開演：午後2時30分(開場：午後2時)

主催：ミュージック・シェアリング NHK大阪放送局 NHKきんきメディアプラン

特別協賛：大阪ガス

～プログラム～

■A. ドヴォルザーク：「スラブ舞曲」より 第1番・第6番・第7番・第8番
徳島市徳島中学校オーケストラ部

■A. ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集『四季』より「夏」
千里国際学園高等部・大阪インターナショナルスクール ストリングアンサンブル
ソリスト：五嶋みどり

■L.V. ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第1番より 第3楽章
同志社中学校管弦楽部

ソリスト：及川浩治

■「世界民謡の旅」(西山健次 編曲)

G.F. ヘンデル：オラトリオ『メサイア』より「ハレルヤ」
大阪府立夕陽丘高等学校音楽科



五嶋みどりさん

う。前代未聞のとんでもない間違いをしでかしてしまった、本業・音楽教師の私は、諸先生方の「度肝を抜くパフォーマンス」にもっぱら学ばされるところです！(笑)コンサートといえばつつい演奏テクニックやサウンドの完成度に気が向いてしまいがちなものですが、音楽の本来の「音を楽しむ」事を十分に感じられた素晴らしい機会となりました。企画進行をされたMr. Berg、Mr. Murrayをはじめ、舞台裏で支えて働いて下さった先生方と生徒のみなさんにこの場を借りて深く感謝しつつ、教員コンサートの報告とさせていただきます。ありがとうございました。

＜追記＞

SIS・OISでは様々な場において楽器や音楽設備を使うことが多いです。いつでも音楽を愛し、演奏や練習をすることは

大変すばらしいことです。ですが最近、練習室をはじめとして、部屋や楽器の利用の仕方が残念なことに変乱雑になってきています。壁に大きな穴が開けられたり、床に本来カフェテリアで食べるはずの飲み物や食べ物のごみがひどく散らかっていたりと残念な状況がよく見受けられます。授業の後は至るところにごみが散らばり、教科書が飛び散らかり、楽器のケースは空いたままで、ぶつかった後や、無理に捻じ曲げられた跡がたくさんあります。ドラムセットやピアノが壊されていることも続いています。このままではせっかくのすばらしい音楽環境を無駄にしてしまうことになってしまいます。細かいルールを規定するよりは、もう一度リスペクトをよく考えてみるほうが、この学校らしいのではないのでしょうか？まずは練習室を音楽の練習

目的にのみ使う、飲食は(シアター、教室、廊下を含め、)どんな細かいものでもカフェテリアです、このことを心がけて下さい。あとはもうしばらく様子をみてみようと思います。きちっと使うことで、より皆さんの音楽感性が成長されることを願っています。

APACソフトボール3位、サッカー男女とも6位

4/14-16開催

Soft Ball

	CA	ISB	OIS	SAS	SJV	Point	Rank
CA		8-7 0	1-10 0	10-11 0	9-5 3	3	4th
ISB	7-8 3		17-12 3	12-15 0	18-0 3	9	2nd
OIS	19-1 3	12-17 0		2-16 0	11-1 3	6	3rd
SAS	11-10 3	15-12 3	16-2 3		22-4 3	12	1st
SJV	5-9 0	0-18 0	1-11 0	4-22 0		0	5th



Elimination Playoff: SJV v CA (CA 12-1)

1-SAS v. 4- CA (SAS 8-1)

2-ISB v. 3-OIS (ISB 14-9)

3rd -4th Place Game: OIS v. CA (OIS 7-5)

1st - 2nd Place Game: SAS v. ISB (SAS 13-6)

Boys Soccer

	BRENT	CA	ISB	OIS	SAS	SFS	WIN	LOSS	DRAW	GF	GA	GD	PTS	RANK
BRENT		1-3	0-1	2-2	0-3	3-7	0	4	1	6	16	-10	1	6
CA	3-1		0-0	0-1	0-0	2-4	1	2	2	5	6	-1	5	4
ISB	1-0	0-0		5-2	1-1	2-1	3	0	2	9	4	+5	11	2
OIS	2-2	1-0	2-5		1-2	1-3	1	3	1	7	11	-4	4	5
SAS	3-0	0-0	1-1	2-1		2-6	2	1	2	8	8	0	8	3
SFS	7-3	4-2	1-2	3-1	6-2		4	1	0	21	8	13	12	1

PLAYOFF ROUNDS					FINAL STANDINGS			
PLACE S	TEAM		TEAM	SCORE	TEAM		TEAM	
1 ST & 2 ND	SFS	Vs	Beijing	1 - 0	1 st	SFS	4 th	CA
3 RD & 4 TH	SAS	Vs	CA	3 - 0	2 nd	Beijing	5 th	Brent
5 TH & 6 TH	OIS	Vs	Brent	0 - 4	3 rd	SAS	6 th	OIS



Girls Soccer

Team	Win	Lose	Rank
SOIS	1	5	6
CA	3	3	4
Brent	1	5	5
SFS	4	2	3
SAS	6	0	1
ISB	3	3	2
Ranking			
1	Eagles (SAS)		
2	Dragons (ISB)		
3	Crusaders (SFS)		
4	Falcons (CA)		
5	Lions (Brent)		
6	Sabers (SOIS)		

Game 16	First half	Final Score
5th-Brent	1	1
6th-OIS	0	0
Game 17	First half	Final Score
3rd-SFS	0	1
4th-CA	0	0
Game 18	First half	Final Score
1st-SAS	3	3
2nd-ISB	1	1



(各校の略称は右ページ参照)

APAC Report

Simon Parker

P.E.

Girls Soccer

April 13th-17th 2005, saw SOIS host the APAC Girls Soccer Tournament at Dai II ground close to the school. We were blessed with 3 days of superb sunshine and soccer for the event and a great time was had by everyone. Our school hosted some 75 student athletes from the APAC schools for 3 days of competition, culminating in the championship game at 4:00pm on Saturday afternoon. The first game on Thursday morning saw Osaka go up against old rivals Canadian Academy in front of the whole school who walked over to lend their support for the team. Unfortunately for us, we lost by 1 goal to 0. As the teams played their own first games it became obvious that the level had improved significantly from last year, and that Shanghai American School in particular were looking very strong. Following a string of 1-0 defeats, unfortunately the Osaka team finished in 6th position. As form would suggest, the Shanghai team ran out champions defeating Beijing by 3-1 in the final. All the awards were presented by Hamato san, a former Japan national team member, in a very colourful ceremony on Saturday evening. As ever I am proud to say that following a unanimous decision amongst the other teams and coaches, Osaka were again presented with the Sportsmanship Award. I would like to recognise the hard work of all the staff, student volunteers and home stay families who worked so hard to make this event such a success. I would also like to thank Alisa Koyama (SIS 12) and Ayaka Cooke (SIS 12) for their great work as captain and vice captain this season : despite the going being tough they never stopped, never gave up and inspired the rest of their teammates

around them to do the same. Alisa was also voted onto the All Star team for the tournament - well done and thanks again to her and to everyone involved !

Thank you for cooperation

A huge thank you to all involved with the APAC Girls Soccer - it was a really great few days and the feedback from the visiting schools was all very positive. I would especially like to thank the homestay families - this year we managed to homestay all but 6 of our visitors with students and we are hearing that the experience was a thoroughly enjoyable one for all concerned. To catch up on all the results and pictures of the action, please visit the APAC site at <www.senri.ed.jp/sports/apac>. The site was created and maintained all week by OIS 9th graders Akira and Takeyoshi - great job guys and thank you !

Still on the subject of APAC, the boys soccer team and girls softball teams both had good weeks and returned safely from Seoul and Shanghai respectively. Many thanks to the teachers who accompanied the students on these trips.

★APACとは

Asia Pacific Activities Conference の略称で、次の学校が加盟しています。

<APAC参加校>

北京インターナショナル・スクール (ISB:中国)、上海アメリカン・スクール (SAS:中国)、ブレント・インターナショナル・スクール・マニラ (Brent:フィリピン)、ソウル・フォーリン・スクール (SFS:韓国)、カナディアン・アカデミー (CA:神戸)、千里国際学園 (SIS/OIS:大阪)

JTUジュニア強化指定選手に認定

馬場博史

トライアスロンクラブランニングクラブ顧問、数学科

■JTU認定記録会

3月27日(日)に兵庫県尼崎市で行われたJTU(日本トライアスロン連合)認定記録会に永田悠太君(SIS10)が出場、Swim 400m 4'39", Run 3000m 9'51"で規定の記録を突破し、JTUジュニア強化指定選手に認定されました。

■万博&吹田陸上競技大会

4月16日(土)17日(日)に大阪府高体連陸上競技第1・2地区記録会が万博競技場で、また17日(日)に吹田市長杯陸上競技大会が吹田市総合運動場で開催され、本学園から14名が参加し、好記録が続出しました。出場者は次の通り。記録は各種目の最高記録のみ紹介します。

【100m】小学6年 15"4 Jonathan Junqua(OIS5) 【1000m】小学6年 4'03" Kento Saito-Baba(OIS6)、Jonathan Junqua(OIS5) 【1500m】中学男子 4'51" 小澤悠、亀井潤、春名暢(以上SIS9)、高校女子 5'55" 吉田英美(SIS12)、高校男子 4'54" 小原大地(SIS11)、徳田航平(SIS12)、溝口智顕、伏見康介(以上SIS11)、一般男子 4'15" 佐藤直仁(コーチ) 【5000m】高校男子 16'47" 永田悠太(SIS11)、小原一平(SIS12)、渡邊聖、長田大毅(以上SIS11)、一般男子 16'06" 佐藤直仁(コーチ)



JTU強化指定選手に認定された永田悠太君

卒業論文用アンケートにご協力ありがとうございました

河田芹菜

2001年度卒業生

SIS新11年生の皆さん、こんにちは。ご進級おめでとうございます。昨年10月に色紙を使ったアンケートでお世話になった卒業生の河田芹菜です。おかげさまで無事、卒業できました。ありがとうございました。今日はこの場をお借りして調査結果をご報告させていただきます。

このアンケート調査は、6色の色紙を使って、様々な文化背景を持つ人々の言語連想の違いを調べてみるというもので、皆さんの他に、豊中市の公立高校の2年生36名にもご協力いただきました。小学校入学以降に1年以上の海外生活を体験した帰国生とそれ以外の一般生と定義づけて分けて、皆さんから頂いたアンケートのデータを比較すると、一般生のほうが「この物質はこの色である」という固定的イメージから

出る具体的な単語での回答が多く、帰国生では、抽象的な反応、つまり色に対する好みや明彩度の直接的な連想が多いことが明らかになりました。例えば、原色の赤に対して、「太陽」「消防車」「火」などの名詞が具体的な単語で、「熱い」「激しい」「怒り」など、感情や好みなどの目には見えないものが抽象的な語です。これは、帰国生徒が一般の生徒に比べて、具体的な物質に対する固定的イメージが少ないと考えられます。また日本の伝統的な色として和紙を用いた色に対しては、例えば、濃緑色、茶色などは、調査対象者全体に共通して「落ち着く」「あたたかい」イメージがある一方で、「嫌な」「暗い」イメージも強く、帰国生のほうが特にマイナスイメージの反応が強く示されました。

このような結果を基にして、「文化背景の差による色彩連想の違い」というタイトルで卒業論文を書きました。ご協力ありがとうございました。

久しぶりの学校は、変わらずあたかくて、たくさん刺激を分けてもらいました。11年生の皆さん、そして、忙しい中無理を聞いて頂いた、大迫先生、栗原先生、木村先生、廣田先生、その他お世話になった先生方、改めて本当にありがとうございました！！

SIS2005年度入試結果最終版

アドミッションズ・オフィス

中等部	志願者数						受験者数						合格者数					
	海外選考		国内選考		計		海外選考		国内選考		計		海外選考		国内選考		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
A選考	1	2	13	21	14	23	1	2	12	20	13	22	1	2	7	19	8	21
B選考	1	1	3	2	4	3	1	1	3	2	4	3	1	0	1	2	2	2
S選考	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
帰国計	2	3	17	23	19	26	2	3	15	22	17	25	2	2	8	21	10	23
一般			39	57	39	57	0	0	36	56	36	56	0	0	19	28	19	28
合計	2	3	56	80	58	83	2	3	51	78	53	81	2	2	27	49	29	51

高等部	志願者数						受験者数						合格者数					
	海外選考		国内選考		計		海外選考		国内選考		計		海外選考		国内選考		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
A選考	0	2	6	8	6	10	0	2	3	7	3	9	0	2	0	7	0	9
B選考	5	3	5	2	10	5	5	3	2	2	7	5	2	3	2	1	4	4
S選考	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0
帰国計	6	5	11	10	17	15	6	5	5	9	11	14	3	5	2	8	5	13
一般			9	12	9	12			9	12	9	12			5	7	5	7
合計	6	5	20	22	26	27	6	5	14	21	20	26	3	5	7	15	10	20

保護者会だより

<定例会報告>

第10回定例会

3月4日(金)12:30~13:30、15:30~16:30
於3F会議室

最終定例会ということで、各学年委員と各Committeeより活動報告をしてもらいました。International Fair Committeeから昨年のフェアでラッフルが中止になったことについての説明と繰越金の使途を議決してほしいとの要望がでました。Boardより、次年度のBoardメンバー(7年以外)の発表のあと、Committeeの体制についての確認がありました。CultureをBoardに吸収し、他は従来通りとなりました。(「フェアを考える会」のため一時中断、終了後再開)International Fair Committeeの繰越金は必要経費を除いた残額をOISとSISで二分の一ずつに分配することに決まりました。

SISのフェア収益金の使途については、International Fair Committeeより臨時定例会を開催してほしいとの意見があり、開催を決定いたしました。

「フェアを考える会」

3月4日(金)13:30~15:30 於3F会議室

International Fair Committee委員長より、昨年のフェアでラッフルが中止に至った経過の説明があり、その後フェアについて今までの問題点や反省点、意見が参加保護者から出されました。今後のフェアのために保護者にフェアについてのアンケートを実施してはどうかとの提案がありました。

臨時定例会

2005年4月4日(月)13:30~14:30 於カフェテリア

International Fair Committeeより、フェア収益金より学校へ寄付をしたいとの提案があり、臨時定例会を開きました。話し合いの結果、(学)千里国際学園への寄付と次年度フェアの準備金の額を決定しました。(詳細は総会で会計報告させていただきます。)

<各委員会活動報告>

Board

2 / 17 保護者会室引越し

「インターナショナルフェアを考

える会」プリント配付

3 / 14 高等部卒業式パーティの手伝い
(ボランティアの保護者の方達と)

3 / 31 保護者会への案内プリント作成
(新7年保護者向け)

4 / 4 入学式出席 臨時定例会

4 / 14 委員引き継ぎ会

Hospitality Committee

4 / 14-16 APAC女子サッカー ランチサービス

Network Committee

新旧地域リーダー親睦会報告

今年度と来年度の地域リーダーさんに集まっていたき、引継ぎを行いました。お忙しい中、38名ものリーダーさんが参加され、校長先生、副会長津高さんもお迎えして和やかに賑やかな会になりました。

地域親睦会のためにいろいろ工夫されている様子、卒業した保護者も参加される等、親睦会の活発な様子を直接お聞きできて委員としても楽しい集まりでした。OISの方から親睦会の連絡があつてうれしかったのでこれからも続けてほしいという声もあり、国際学校らしい交流の輪が広がればと思います。

Public Relations Committee

3~5月 インターカルチャ5月号
編集・校正・発行、保護者会HP更新作業

MIMIコーナー

保護者会だより「MIMIコーナー」のご案内

保護者の投稿欄です。し、エッセイ、イラスト、提言、苦言、質問何でも結構です。皆さんからの声を大募集します。誌上匿名希望でも、投稿の際は記名して下さい。受付場所：玄関脇の赤いポスト或いはpr@sispa.jpへお願いします。担当：Public Relations Committee

SISとOIS

獅子倉雅子

2004年度SIS保護者会長

『千里国際学園』(SISF)は、SISとOIS この二つの学校を併設しているというのはみなさんご存知のことでしょう。インターカルチャの表題部分と裏表紙の一番下を読んでいただくと、もう少し詳しく書いてありますが、ここでは保護者会のことに関連するSISとOISのことをご説明したいと思います。

*学年の始まり SIS4月 OIS9月

*保護者の組織と運営 SIS・保護者会(保護者だけで構成する組織) Parent Association=PA・年間1家庭1万円の保護者会費で運営 OIS・Parent-Teacher Association=PTA・寄付金やバザーなどの収益金で運営

*組織運営の委員の選出方法とその時期 SIS 年度末の(7年生のみ4月)に各学年から一定数の学年委員を互選。そしてその学年委員の中からBoardメンバーを互選。活動開始時期は5月の総会以降。OIS Boardメンバーのみ立候補と推薦によって選出。活動開始時期は9月。

簡単な説明ですが、少しはおわかりいただけたでしょうか?このような違いがある両校ですが、いろいろな行事において交流を深めていこうとしています。先日OISの保護者の方に「なぜOISにお子さんを通わせているの?」と尋ねたところ「SISがあるからよ」と返事が返ってきました。私達SISの保護者も「OISがあるからこの学校を選んだ」と思っている方も多いことでしょう。お互いがお互いの存在を大切に思い、国や文化、言葉の違いを乗り越え理解しようと努力すること、このことを念頭において保護者会活動をしていけば、親子ともども千里国際学園ですばらしい学園生活をおくることができるのではないのでしょうか?今年度も保護者会活動への皆様の積極的な参加を期待しております。

一年間をふりかえって

名称も新たにスタートした2004年度委員会活動、保護者のみなさまには、色々な活動にご参加、ご協力いただき有り難うございました。この一年をふりかえって、各委員会からみなさんの声をお伝えいたします。

Culture Committee

講演会や講習会、演奏会の企画運営という私にとって稀有な面白いことを経験することが出来ました。多くの方にご参加いただくことの難しさを感じましたが、一つの催し物を行うにあたって、たくさんの方にお力添えやご参加をいただき、ご厚情という言葉を感じてきた有難い年でした。皆様、本当にありがとうございました。そして、楽しい頼りになる方たちと一緒に活動できましたことも感謝しています。(田宮美香)

今、私はSISの12年生の親としての役を無事に終え、満足感と大きな達成感、そして役員を引き受けて良かった思いが心地よく胸に広がっています。その一つ、カルチャーでは良きメンバーに恵まれ、まずお互いの個性を尊重し、「サービス精神」に徹したことが手前味噌ですが良い結果につながったのだと思います。時折次女に「お姉ちゃんよりお母さんの方が楽しんでいない?」と言われていました。ちなみに私が担当した整体・気功の楊先生は現在介護施設での老人の足腰を鍛え転倒予防の気功・鍛錬に力を入れているそうです。最後にカルチャーを支えて下さった全ての方にお礼申し上げます。私は次の目標に向かってlet's go!(仲谷紫英)

母親として、もっと千里国際学園のことを知りたいと思って委員をさせていただきました。講習会や講演会などを企画し開催するにあたり、良いイベントにしたいと委員の皆で色々意見を出し合いながら楽しんで取り組んできました。講演会などでは私自身も多くのことを学ばせていただき、また感動することもたくさんありました。皆様のお陰で無事一年間を終えることができましたこと、とても嬉しく、感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございました。(高橋昌代)

初めてづくしの委員会でしたが、振り返ってみると「充実と感謝」という言葉

がびったりの一年でした。ボランティアで遠路からおいで下さった講師の方々の講演はどれも心に響くものがありました。また、カルチャー委員のメンバーに恵まれ、とても良いチームワークで動いた委員会だったと思います。最後の音大生の演奏会でも沢山の方が来てくださり、なんとかこの年度を乗りきったという感慨がありました。それぞれの催しに参加くださった皆さんに心から感謝致します。最後になりましたが、私達をサポートしてくださった校長先生、事務局の皆さん、先生方、そしてルイスさん、本当にありがとうございました。(松原恭子)

この1年間、カルチャー委員会の行事に、ご参加、ご支援頂きまして、ありがとうございました。私自身、入学2年目で委員をお引き受けしたものの、「会議室って何処でしたっけ?」という状態だったので、お役に立たない事、この上なかったと思います。それでも、仲間の委員さん方のパワーを頂いて、何とか無事に、且つ、楽しく終える事ができました(感謝)。また、学校や保護者会の多様な面を知る事ができ、とても有意義な一年でもありました。発足10余年の保護者会ですから、ある意味、組織が若いのが故に抱えている問題もあるでしょうが、それだからこそ、梓にはまらない活動ができるのだと思います。これからも、期待と応援をし続けたいと思います。(辻川博美)

保護者の皆様にも生徒や先生方にも催しに参加していただいて本当に嬉しく思っております。委員の皆様にも大変お世話になりました。今回、委員をさせていただきましたことでも人とのつながりが増えました。これからも公私共に末長くお付き合い下さい。ありがとうございました。(守茂山丁子)

International Committee

透き通るような澄み切った青空が千里国際学園をすっぽり包んでくれた、晩秋とは思えないほどの暖かい日に恵まれて開催することができた2004年度インターナショナルフェアー。毎年お天気に恵まれているとは聞いていたものの前日の雨もあり心配でしたが、例年どおり無事終

了することができました。保護者の方々の多大なるご理解とご協力に感謝いたします。有り難うございました。またエンターテイメントにおいては、校長先生にもモデルとしてご協力頂きましたこと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。千里国際学園のフェアが保護者の方々をはじめ、地域やより多くの方々に益々愛される魅力ある素晴らしいものとして今後も開催されることを楽しみにしています。微力ではありましたが、一年間インターナショナルフェア委員長として活動させて頂きましたことに感謝致します。ありがとうございました。(小島敦代)

Hospitality Committee

“Hospitality Committee”は、春・冬のコンサート、オールスクールプロダクションのティーサービス、APACの先生方の食事やパーティーの用意等の活動をしています。縁あって集まった10名の仲間と学校からのお手紙に添えさせていただいたボランティア募集で多くのお母様方がお手伝いくださり、毎回HFLは賑やかな声につつまれ楽しく活動することができました。今年の活動は4/14～4/16までAPAC(女子サッカー)を残すばかりとなりました。最後になりましたが、お手伝い下さった方々に心からお礼申し上げます。“ありがとうございました”(一階和子)

学年を越え、多くの方々と出会えた事、楽しい雰囲気の中でお手伝いしながら学校の様子も学べた事、とてもお得な一年でした。(緒方和美)

行事予定は年度初めに決まっていたので、仕事を持っていても予定が立ち、楽しく活動できた。(長田和子)

堺からは遠くて大変でしたが、多くの情報を得る事が出来た事がとても有意義でした。(松田真由美)

娘が入院して数回しか参加できませんでしたが、色々な方と知り合うことができ楽しく過ごすことができました。(三戸部元子)

大変な事もあったけど、皆さんと楽しく交流を深められたのでやって良かったです。(印藤真弓)

委員を引き受けたことで、先生方や、他

保護者会総会のお知らせ

2005年保護者会総会を下記のとおり、開催いたします。

日時：5月20日（金）午後1時30分より

場所：シアター

の学年のお母さん方とお話する機会がふえ、とても楽しく一年を過ごすことが出来ました。（佐野紀子&辻光子）

ワイワイお料理を作ったり、みんなでおしゃべりしたり楽しくて、あっという間の1年でした。（天牛まり子）

子供たちの活躍を垣間見ることができ、笑顔のあふれた、情報交換の場としても有意義な一年でした。（長谷京子）

Network Committee

どこの学校にも保護者の集まりはありますが、地域ごとに集まるというのは少ないのではないのでしょうか。遠くて学校まではなかなか来られない方やお仕事をお持ちの方も、同じ地区の方たちと会うのをとても楽しみにしておられます。学校や子どもの様子、通学路のこと、進学のことなど、みなさんが楽しく賑やかに話し合っている様子がどの報告書からも伝わってきました。また今年はOISの方の参加もあり、これからも輪が広がればと思います。

私の長女が一般生として7年生に入学した時、親も子どももわからないことばかりでしたが、同級生のお知り合いができるより早くに地区の集まりでいろいろなお話を聞くことができました。今思えばとてもエネルギーで、この学校のお母さん方らしい集まりだったと思います。

地区リーダーを引き受けて下さった方々は、皆さんのご都合を考えて何度も連絡をとったり、夜の方が集まりやすいかしら等あれこれ工夫をされたり、一年間ありがとうございました。ネットワーク委員同士はあまり顔を合わせずPC上で名簿のチェックをするのが主な仕事でしたが、保護者の皆さんの交流を深めるお手伝いができて有意義だったと思います。（左海真由美）

Public Relations Committee

“Public Relations Committee”という名称に少々緊張しながらスタートした活動。年度に6回発行されるインターカルチャ保護者会ページをどのように進めていくのかという不安。しかし、最初のミーティングで、「自分たちが知りたい事の特集にしよう！」と意見が一致し、一年間楽しく特集記事に取り組めたと思

います。ご協力頂いた卒業生の方々には本当に感謝しております。ミーティングのほとんどがパソコンの中でしたが、PRらしくて良かったと思いました。また、保護者会ホームページ立ち上げにも携わることができ、多くの経験をさせて頂きました。過ぎてしまえばあっという間の一年間。委員会、学年の壁を越え多くの方々との出会い、話し合えた一年間。私の貴重な財産です。（吉田尚子）

<編集後記 Public Relations Committeeメンバー>

SIS保護者会の皆様、ごきげんいかがですか？

私は、一年間SIS保護者会のPRとして、楽しく活動しました。本当にとても楽しく関わりましたよ。初回の会議で、「仕事を持っている私でも、自宅で出来ることはなんでもしますよ。」と参加のスタイルを伝えましたので、主な活動はインターカルチャーの編集とSISPAホームページの編集があたりました。それぞれが出来ることを、出来る時間に、全体ののために使い、お役に立てていただく。そういった自由で公平な参加のスタイルが、SISPAの持ち味です。上級生のお母様方の友達もでき、とても幸福な経験でした。また、どこかでお声をかけてください。SISの良いところと一緒に話しましょう！（狩谷明美）

パソコンも出来ない私でしたが、メンバーのサポートで何とかやってこれました。個人的に知りたかったことを特集を組めたりして良かったです。（山添葉子）

インターカルチャーに関わるようになってから、発行日が楽しみで、自分の手がけた特集が文字になる喜びを味わう事ができました。パソコンの使い方よりもうまくなったかな？卒業生たちとメールで投稿の依頼や内容のやり取りを

したのが一番楽しかったです。少しでも在校生たちのお役に立てたのなら幸いです。（南出純子）

水の表しか知らなかった私が今回水に浸り、水面下でなされている多くの活動に気付かされました。自分の時間、活力を惜しみなく注がれている保護者の献身的な姿に改めて感謝したい気持ちでいっぱいです。有難うございました。（佐々木範子）

とにかく多くの方々に助けて頂きました。感謝しています。そして、ホームページ更新という私にとっては一大事？も経験できました。（リンクさせる作業ができたときは感激でした！）一年間、数々の失敗を繰り返し、インターカルチャでは馬場先生に、保護者会ホームページではルイスさんに大変お世話になりました。少々腕前を上げたPC、忘れないようにしたいです。PRの皆さん、PCでの会話楽しかったです！ありがとうございました。（吉田尚子）

「読んだり書いたりPCいじったり」は好きなのに、一年中あまり貢献できなかった私を暖かく助けてくださった皆さん、また多くの方と知り合え、一緒に活動できたこと、心から感謝しています。ありがとうございました！インターカルチャと保護者会ホームページがこれからもどんどん素敵な進化を遂げること、楽しみにしています。（飯塚宜子）

5～6月行事予定

月	日	曜	
05	28	土	学園祭
	30	月	教員研修日・休校
06	10	金	高等部スポーツ表彰式
	14	火	高等部春季コンサート(6:30メイプルホール)
	15	水	学校説明会
	21	火	編入選考
	23	木	中等部春季コンサート(4:00シアター)
	30	木	春学期終了

学園祭のご案内

5月28日(土) 9:45-14:30

テーマ：60年代70年代

当日は公共交通機関のご利用をお願い致します。

編集後記

新入生とそこご家族の皆さん、千里国際学園によろこそ。SIS広報誌「インターカルチャ」は、授業・学校行事・クラブ活動をはじめ、留学・研修の報告や、日頃なかなか知ることのできない他学年の様子、卒業生からの寄稿、保護者会からのお知らせなど、豊富な話題が満載です。どうぞゆっくりお読みください。そしてできれば大切に保存しておいてください。個人・グループの活躍の紹介もありますので、そのうち自分が写真つきで掲載されることがあるかも知れませんね。お楽しみに。今年度は学園創立15年目にあたりますが、インターカルチャは次号で100号を迎えます。私は1993年の17号から(途中1年だけ担当を離れましたが)ずっとこの広報誌を作り続けています。まるでライフワーク?のようになってしまいました(笑)。100号記念特集記事を募集していますので、奮ってご応募ください(P.17参照)。これからもますます内容の充実に励みます。「保護者会だより」を担当していただいている保護者会広報委員の方々、1年間ありがとうございました。そして新委員の皆さん、どうぞよろしくお願いします。(馬場博史)

4月、新入生を迎え、新しい1年が始まりました。キラキラした生徒の笑顔を見ると、こちらまでうれしくなってきました。5月には学園祭。HFL室が1番賑わう時期。生徒のやりたい気持ちは理解しつつも、安全面への配慮は大きな課題。今年も、事故無く、楽しい学園祭となりますように。(志垣満理)

インターカルチャへの記事・ご感想等は、e-mailで hbaba@senri.ed.jp までお送り下さい。インターカルチャはバックナンバーも含めて本学園ホームページ www.senri.ed.jp/interculture でもご覧いただけます。また広報センター担当の学園ホームページにつきましてはのご意見・ご感想などもお待ちしております。

編集：SIS広報センター 保護者会だより記事：保護者会広報委員 カット：イラストレーションクラブ生徒

Senri International School Foundation (SISF)

Senri International School (SIS)

Osaka International School (OIS)

4-4-16, Onohara-Nishi, Minoh-shi, Osaka 562-0032, JAPAN

TEL 072-727-5050 FAX 072-727-5055

学校法人千里国際学園(SISF)

千里国際学園中等部・高等部(SIS)

大阪インターナショナルスクール(OIS)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西4丁目4番16号

電話072-727-5050 FAX 072-727-5055

年間発行予定と主な内容 ()は発行時期

春学期 5月号(上旬) 卒業式、入学式、大学等合格状況

6月号(中旬) 学園祭、教育実習

秋学期 10月号(上旬) 夏の宿泊行事、夏の諸活動報告

11月号(中旬) 運動会、玄関コンサート

冬学期 2月号(上旬) オールスクール・リレーション

3月号(中旬) 入試結果、卒業生へ贈る言葉

他に留学報告、スポーツ結果、各種表彰、授業紹介、生徒会・クラブ活動等

千里国際学園は、帰国生徒を中心に一般日本人生徒や日本の教育を希望する外国人生徒も受け入れて日本の普通教育を行う千里国際学園中等部・高等部 Senri International School (SIS) と、4歳から18歳までの主に外国人児童生徒を対象とする大阪インターナショナルスクール Osaka International School (OIS) とを、同一敷地・校舎内に併設しています。

両校は一部の授業や学校行事・クラブ活動・生徒会活動等を合同で行っています。チームスポーツはこの2校で1チームを編成しており、APAC(Asia Pacific Activities Conference)の公式試合や、近隣のインターナショナルスクール、日本の中学・高校との交流試合等に参加しています。このため、校内ではインターナショナルスクールの学校系統に合わせて、6年生～8年生(日本の小学6年生～中学3年生春学期)をミドルスクール(MS)、9年生～12年生(日本の中学3年生秋学期～高校3年生)をハイスクール(HS)と呼んでいます。